

平成22年度事業報告

(財)日本バスケットボール協会
平成23年6月19日

事業報告

◆平成22年度 JBA事業計画指針

I～II

1. 技術の調査研究

●強化本部会

P. 1～3

(1) 選手強化

①男子強化

P. 3～5

②女子強化

P. 6～8

(2) 育成

P. 8～10

(3) 調査・分析

P. 10～11

(4) 味の素ナショナルトレーニングセンター

P. 11

(5) 医科学研究

P. 12

2. 競技会の開催

(1) 国内競技会

P. 13～22

(2) 国体部

P. 22～24

(3) 日本スポーツマスターズ大会

P. 24～25

3. 国際競技会の開催及び代表チームの派遣

(1) 国際（国内開催）

P. 25～26

(2) 国際（国外開催）

P. 26～30

4. 国際関係

P. 31

5. 講習会及び指導者養成

(1) 公認スポーツ指導者養成

P. 32

(2) 規則・審判事業

P. 32～36

(3) 公認審判審査

P. 36

6. 施設、用具の認定

P. 36～38

7. 総務

P. 38

8. 財務

P. 39

9. 広報

P. 39～41

10. 普及編成

P. 41～42

11. 企画・事業

P. 42～44

12. 特別委員会

P. 45～50

平成 21 年 11 月 11 日

平成 22 年度・事業計画指針

「事業推進の方向性構築とその基盤整備」

JBA 創立 80 周年を迎えるにあたり、本年は、今後の事業推進の方向性を中短期にわたりしっかりと確認し、必要な諸施策の基盤を確実に整える年度とする。

I. 競技力向上事業

- 日本代表チームの 2012 年(ロンドン)、2016 年(リオデジャネイロ)両オリンピック出場を最大の目標とし、アジア地区予選突破に全ての Power を結集する。
- ミニから日本代表選手までの一貫した育成強化プログラムの構築と味の素 NTC の積極的活用による新たな展開検討。

II. 普及事業

- 競技スポーツに止まらず、それぞれのライフステージに合わせた生きがいのある生涯スポーツとしても「バスケットボール」を全国的に普及振興を図る。
- 3 on 3 バスケットボール競技及び障害を持つ人のバスケットボール団体との連携を強化し、JBA が主体性を持つ大会開催を企画する。

III. (新) トップリーグ創設に向けた準備体制の構築

地域に根ざし、地域のファンと共にある質の高いプロフェッショナル競技の(新)最強トップリーグを創設、これにより広範な普及と強化を推進、真のメジャースポーツ、バスケットボールへ前進を図る。

IV. 国際（招待）大会の開催

- 強化関係各部との連携を密にし、女子においては2010年FIBA女子世界選手権大会の壮行試合を、男子は2011年FIBAアジア選手権を視野に入れた招待強化試合を開催。
- 2012年ロンドン五輪アジア地区予選を兼ねた2011年男女FIBAアジア選手権並びに2012年女子五輪世界最終予選の開催誘致は、アジア各国の動向を見極めつつ、日本開催の実現に向け働きかけを行う。

V. 事務局体制の強化

人的補強から質的充実に重点移行し、組織の機能向上と各事業遂行における一層の効率的連携を図る。

- 会員登録システムの採用
- 会計システムの導入
- 規約規定の見直し

VI. JBA創立80周年記念事業

（目的）

- 昭和5年に設立されてから今日迄の我が国バスケットボールのあゆんできた道と、JBAが果たしてきた80年の足跡をたどる。
- 新たな時代に向けバスケットボール競技の振興を国内外に推進、競技力の向上とバスケットボールを楽しむ人達の一層の拡大を進め、JBAの果たすべき使命を広く発信する。

（記念行事）

- 記念式典開催 （2010年9月12日（日））
- 記念誌の発刊 （最近の30年史）
- 功労者等表彰

以上

1. 技術の調査研究

●強化本部活動報告

1) 強化目標

アジア地区の頂点を目標に、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロオリンピックの出場権獲得を目指す。

<男子>

- ① 平成22年度男子日本代表チームは、ジョーンズカップ3位、スタンコビッチカップ2位、アジア競技大会4位と着実に力をつけてきたのは心強く、実り多い1年であった。

特に、日本チームのプレースタイルが確立しつつあり、今後の課題もはっきりと掴めてきたのは大きな成果である。

アジアの順位は、イラン、中国を筆頭に、レバノン、韓国に次いで、日本、ヨルダン、カタール、フィリピンの8強と考えられ、本年9月に中国で開催されるアジア選手権大会で3位以内を目標に世界最終予選、ロンドンオリンピックの出場権獲得に向け挑戦を図る。

- ② U-18 アジア選手権は、第1次リーグをインド、イラク、イエメンに勝ち1位で進出したが、第2次リーグでフィリピン、中国に敗れ、4位で決勝トーナメントに進出した。

初戦、韓国に敗れ5-8位決定戦に回り、再びフィリピンと対戦、惜しくも延長で、そして最終戦をレバノンに敗れ8位。

今大会は1位中国、2位韓国、3位フィリピンと東アジアが上位を占め世界選手権大会への出場権を獲得した。日本は何れも接戦だけに惜まれるが、プレースタイルも確立しつつあり今後、最大の課題である大型選手の強化を図り上位進出を果たしていきたい。

<女子>

- ① 日本代表チームは、世界選手権大会10位と目標の8位入賞には惜しくも及ばなかった。

シュートや速攻の上手さは世界でもトップクラスであるが、ペイント内の得点やフリースローの試投数が少ないことからインサイドへのアタックや大型選手へのディフェンスが大きな課題である。

アジア競技大会は、世界選手権と同様に、韓国の壁を破れず、3位の定位置に留まった。

激しいプレッシャーディフェンスからのオールコートオフェンス、大型選手対策等当初の方針の更なる徹底を図り、本年8月に長崎で開催されるアジア選手権大会において地の利を生かしロンドンオリンピックの出場権獲得に向け総力を結集していく必要が有る。

- ② U-17 は世界選手権大会で5位に入賞し、2年前のU-18 アジア初制覇に引き続き、歴史的快挙を成し遂げた。

特にオールコートマンツーマンディフェンス→速攻、早いパス回しからの外角のシュート等幅広い攻撃が出来たことにより日本のプレースタイルが確立されてきたと思うし世界で通用する事が証明できた。

一方で、依然と差があるペイント内の得点差やリバウンド力、身体を預けたカットインプレーへの対抗等フィジカル面の課題を解決していけばメダルへの道も見えてくるであろう。

今大会世界5位の実績は、歴代スタッフからの継続的な強化活動の賜物と思うしエンデバー制度の成果と思われる。

今後、男女共、一日も早く、強化とエンデバーの接点の調整を図り、中長期的展望に立った具体的ジュニア強化計画の確立を図る必要が有る。

<育成>

①エンデバー制度の今後の展開を立案・推進

エンデバー委員会で推進・展開中。

②指導者育成制度の今後の展開を立案・推進

指導者育成委員会で推進・展開中。

2) 具体的強化活動

(1) 日本代表チーム

①HCの専任制継続とスタッフ間の連携強化

・HCの専任制を継続し、カテゴリー別スタッフ全体の配置・人数・役割も確立してきた。

23年度は更に各カテゴリー間、スタッフ間の連携強化を図る必要が有る。

②日本代表チームと所属チームとの強化方針等連携強化

・22年度事業計画の実現には至らなかったが、23年度はS&CTレーナーの専任も決まり年間を通して、フィジカル面の強化を中心とした所属チームとの連携を図る予定。

③日本代表チーム優先の国内スケジュール調整

・昨年9月に開催された第21回U-18男子アジア選手権大会と千葉国体が重複したことにより優秀な選手2名が出場を辞退した。

・この問題解決のため、競技者規程の目的「我が国代表チームが国際大会において優秀な成績をあげること」を遵守するため、2月に、理事会の横断部署メンバーによる「日本代表チーム競技スケジュール連絡会」を設置した。

・23年度以降、連絡会を中心にして、継続的に、国内・国際大会日程重複への対応、競技者規程と関係者への啓発活動を実施していく。

(2) 指導者育成

①指導者登録・育成制度の見直し検討

・22年度は、一昨年から育成部・指導者育成委員会WGで検討を重ねてきた「コーチライセンス制度」の改定を行った。

・5年後の、コーチライセンス取得の完全義務化を目指し、推進体制の整備等を実施していく。

②強豪国の強化方針・体制等調査・分析

・22年度は女子強化部において、オーストラリア・ヨーロッパのジュニア強化方針等の調査を行い、23年度強化方針に生かすよう現在検討中。

・23年度は、更に男子強化部においても実施する予定。

(3) 選手強化

①個の技術強化、ビッグマンキャンプ、ジュニア強化計画

・特に、男子強化部において、育成強化の個の技術、U-16・18 合同でのビッグマンキャンプを実施し成果を上げてきたが、今後更に、内容を充実させる必要が有る。

②また、男女ジュニア強化計画は、23年度の実施に向け現在検討中。

(4) サポート体制

① S&Cトレーナー

・一昨年から、スポット的にS&Cトレーナーによるフィジカル面の強化を図ってきたが、23年度は専任トレーナーを配置し、年間を通して強化体制を図る予定。

② 専任情報分析アナリスト1名増員と情報分析チームの新設

・22年度は、男子強化部においても情報分析アナリスト1名を配置した。

・4月から、強化本部に「情報分析チーム」を新設、アナリスト8名でスタートし、国際大会等の情報調査・分析を行い男女の競技力向上に貢献してきた。

・また、NTC・テクニカルルームにコンピューターハードディスクを設置し、会議スペースも確保した。

(5) JBA事業

・国際部との連携により、男女チーム招聘等国際親善試合への協力・貢献活動を行った。

(6) 強化本部組織

・強化本部に情報分析チームを新設した。

・活性化に向け強化本部各部の組織を見直し実施した。

(1) 選手強化

① 男子強化活動

平成18年開催「第15回アジア競技大会(於:ドーハ)」6位ならびに平成21年開催「第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会(於:天津)」10位の結果を受け、平成22年5月よりトーマス・ウィスマンヘッドコーチの下、新体制でスタートを切った。

本年度は国内での強化合宿を中心に、7月に開催された「第32回ジョーンズカップ(於:チャイニーズ タイペイ)」や、「国際親善試合(於:豊田・東京・須賀川)」において実践力を高め、8月には第26回FIBAアジア選手権大会(平成23年開催)の出場権に関わる非常に重要な大会となる「第3回FIBAアジアスタンコビッチカップ(於:レバノン)」に出場し、準優勝(2位)という結果を収めた。

また、11月に開催された「第16回アジア競技大会(於:広州)」では、16年ぶりとなる準決勝進出を果たし前回のアジア競技大会6位から4位へと向上を見せ、前回のFIBAアジア男子バスケットボール選手権王者のイランを破るなど、アジア諸国に対し、着実に日本の復調の兆しを示すことができた。

アンダーカテゴリーについては、男子U-18日本代表チームが「第21回FIBAアジア男子U-18バスケットボール選手権大会(於:サマア)」に出場し8位という成績であった。

日本代表/ユニバーシアード代表は、結果よりも過程の充実に重きを置き、現実的かつ達成可能な目標をステップごとに設定し、一つ一つ目標達成を目指し、段階的に競技力を向上していく強化方針の下に強化活動を展開した。

本年度の活動に関しては、FIBA ASIA のランキングに影響のある「第16回アジア競技大会」を最も重要な大会と位置づけ、さらに2012年ロンドンオリンピックへの出場権のかかる平成23年度開催のアジア地区予選における東アジア地区の出場追加枠がかかった「アジアスタンコビッチカップ」をその次に重要な大会とするなどし優先順位をつけ、以下の各大会での上位入賞を第1ステップにおける目標としその達成を目指した。

<平成22年度成績>

- 第32回ウィリアム・ジョーンズカップ (台北市) 3位
- スタンコビッチカップ 2位
- 第16回アジア競技大会(2010/広州) 4位

1. 日本代表活動

期間	活動内容	場所	
5/20～5/26	第1次合宿	味の素トレセン	東京都北区
5/30～6/5	第2次合宿	味の素トレセン	東京都北区
6/11～6/17	第3次合宿	味の素トレセン	東京都北区
6/21～6/25	第4次合宿	味の素トレセン	東京都北区
6/30～7/8	第5次合宿	味の素トレセン	東京都北区
7/14～7/20	第32回ウィリアム・ジョーンズカップ	チャイニーズ・タイペイ	
7/24～7/27	国際親善試合 2010	愛知・東京・福島	
8/2～8/4	第6次合宿	味の素トレセン	東京都・北区
8/7～8/15	第3回 FIBA アジアスタンコビッチカップ	レバノン	東京都北区
10/4～10/5	第7次合宿	味の素トレセン	東京都北区
10/25～10/26	第8次合宿	味の素トレセン	東京都北区
11/9～11/12	第9次合宿	味の素トレセン	東京都北区

2. ユニバーシアード日本代表活動

期間	活動内容	場所	
3/6～ 3/9	第1次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区

ユニバーシアード代表は、次年度ユニバーシアード競技大会(2011/深圳)に向けた強化を行った。2回の強化合宿と、リトアニア遠征を予定していたが、東日本大震災の影響で合宿1回・遠征1回が中止となった。

3. U-18 日本代表

期間	活動内容	場所	
3/29 ～ 4/12	ドイツ遠征(アルバート シュバイツァー トーナメント)	ドイツ	
5/14 ～ 5/16	第1次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区
8/19 ～ 8/21	第2次強化合宿	大阪府	大商学園高校 他
8/22 ～ 8/29	第18回日・韓・中ジュニア交流競技会	中国	鄭州市
9/14 ～ 9/18	第4次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区
9/19 ～ 10/3	第21回 FIBA ASIA U-18 男子選手権大会	イエメン	サヌア

11月に開催される「第21回 FIBA アジア男子U-18 バスケットボール選手権大会(イエメン/サヌア)」に向けての強化活動を行った。大会結果としては、16チーム中、8位であった。

4. U-16 日本代表

期間	活動内容	場所	
8/27 ~ 8/30	第1次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区
10/30 ~ 11/2	第2次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区
2011/1/2 ~ 1/4	第3次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区
2011/1/5 ~ 1/11	ドイツ・チェコ遠征	ドイツ・チェコ	

平成 23 年度は、国際大会が開催されない年であったが、強化の狭間をつくることは得策ではないとの観点から、U-16 男子チームの強化活動を行なった。2011 年度に開催される FIBA アジア U-16 男子選手権大会へ繋げるための活動であった。1 月にはドイツ遠征を行い、5 試合のゲームを行った。東日本大震災の影響で 1 回の合宿が中止となった。

5. 育成強化キャンプ

期間	活動内容	場所	
2/4 ~ 2/6	第1次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区
2/24 ~ 3/1	第2次強化合宿	味の素トレセン	東京都北区

男子選手の『個』の強化を図り、将来の日本代表候補選手になりうる選手のレベルアップを図る目的で 2 回の育成強化キャンプを行った。男子日本代表チームヘッドコーチであるトーマス・ウィスマン氏を中心として実施することにより、若手選手のモチベーションを上げ、次世代の日本代表選手をこのメンバーから輩出できるように取り組んだ。

6. Basketball without Borders (国境なきバスケットボール)

期間	活動内容	場所
6/26 ~ 7/1	第 6 回 Basketball without Borders	シンガポール

FIBA と NBA の共催による Basketball without Borders (国境なきバスケットボール・バスケットボール・ウィズアウト・ボーダーズ) に、次の 3 名の推薦が承認され、2 名が参加した。

- 永吉 佑也 (青山学院大学)
- 張本 天傑 (青山学院大学)
- 田中 大貴 (東海大学) → 諸事情により辞退

7. 男子強化委員会開催

開催日	場所
5/11	渋谷ホームズ 1 階 集会所
8/30	岸記念体育会館 504 会議室
2011/2/28	味の素ナショナルトレーニングセンター 研修室 5
2011/4/15	カフェ・ミヤマ ミinspace 渋谷東口店 会議室 5

②女子強化活動

平成22年度は、日本代表の世界選手権に始まり、アジア競技大会、U-17世界選手権、U-18アジア選手権と大会が目白押しであった。

日本代表の世界選手権は2次リーグで惜しくも敗退、10位となったが、アンダーカテゴリではU-17世界選手権、ユースオリンピックで5位、U-18アジア選手権も準優勝で来年度の世界選手権出場権を獲得し、この年代のポテンシャルの高さを見せた。ただし、選手の派遣にあたって特にアンダーカテゴリでは国際大会と全国大会とのバッティングがあり、関係各位に多大なご尽力をいただいた。これは今回だけでなく、来年度のU-19世界選手権でも同様の問題があり、今後の対策が急務となる。

◆FIBA 女子世界選手権

期間	活動内容	場所	
4/1(木)～4/11(日)	第1次強化合宿	東京都北区	味トレ
4/16(金)～4/26(月)	第2次強化合宿	東京都北区	味トレ
5/20(木)～5/31(月)	第3次強化合宿	東京都北区	味トレ
6/1(火)～6/12(土)	第4次強化合宿(海外遠征)	オーストラリア	メルボルン
7/3(土)～7/6(火)	第5次強化合宿	東京都北区	味トレ
7/6(火)～7/20(火)	第6次強化合宿(海外遠征)	リトアニア	ドルスキニコイ・ペーンペジー
8/23(月)～8/26(木)	第7次強化合宿	北海道深川市	
8/28(日)～8/31(火)	第8次強化合宿(国際親善試合)	北海道札幌市・宮城県仙台市・山形県山形市	
9/6(月)～9/22(水)	第9次強化合宿(海外遠征)	フランス・チェコ	
9/23(木)～10/3(日)	FIBA 女子世界選手権	チェコ	

予選ラウンドはDグループでアルゼンチン、チェコ、ロシアと戦った。アルゼンチンに1点差で辛勝して2次ラウンドに進んだものの、最終戦の韓国戦に破れ2次ラウンドで敗退、9-12位決定戦に回った。

10位決定戦でブラジルに敗れ、最終成績は10位となった。

大神選手(JX)が平均得点1位、吉田選手(JX)がアシストで1位となる活躍を見せた。

◆アジア競技大会

期間	活動内容	場所	
11/8(月)～11/10(木)	第10次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/12(土)～11/27(土)	アジア競技大会	中国	広州

Wリーグ開催の合間を縫っての参加となった。日本は2次ラウンドからの出場となり、チャイニーズ・タイペイ、モルジブと対戦した。2試合とも危なげなく勝利して準決勝で韓国との対戦となったが、ここでは大敗を喫し3位決定戦で再びチャイニーズ・タイペイと対戦した。3位決定戦では始めから主導権を握って勝利、3位で大会を終えた。

◆U-24(ウィリアム・ジョーンズカップ)

期間	活動内容	場所	
活動なし			

タイペイ協会の日程変更により、大会参加を見合わせた。

◆U-24(ユニバ)

期間	活動内容	場所	
6/13(日)～6/15(火)	第1次強化合宿	東京都北区	味トレ
6/16(水)～6/18(金)	第2次強化合宿(海外遠征)	チャイニーズ・タイpei	
2/16(水)～2/18(金)	第3次強化合宿(選考合宿)	東京都北区	味トレ

来年度のユニバーシアードを見据えての強化活動となった。韓国学連との李相伯杯開催が今後厳しくなったことから、日学との共同事業としてチャイニーズ・タイpei遠征を実施、今後定例化していく。また、3月中旬以降も強化合宿・海外遠征を予定していたが、東日本大震災の影響により中止した。

◆U-18

期間	活動内容	場所	
5/11(月)～5/13(水)	第1次強化合宿	東京都北区	味トレ
6/7(月)～6/11(金)	第2次強化合宿	愛知県安城市 他	
6/23(水)～6/30(水)	第20回 FIBA アジア U-18 選手権 兼 U-19FIBA 世界選手権アジア地区予選	タイ	スラータニー
8/27(金)～8/29(日)	日中韓ジュニア交流競技会	中国	
9/13(月)～9/15(水)	第3次強化合宿	東京都北区	味トレ
10/18(月)～10/20(水)	第4次強化合宿	東京都北区	味トレ
3/11(金)～3/12(土)	第5次強化合宿	愛知県安城市	アイシン AW 体育館

国内大会とのバッティングなどで思うようなチーム編成とならなかったが、決勝までは予定通りの試合運びで勝ち進んだ。決勝では中国の高さとパワーに圧倒され日本らしい戦いとはならなかったが、来年行われる世界選手権の出場権を獲得した。

日中韓交流はアジア選手権エントリーから漏れた選手を中心に国際経験の観点からチームを組んで出場した。

また、東日本大震災の影響により3月11日～13日の第5次強化合宿を途中中止、そして3月下旬の海外遠征を中止とした。

◆U-17

期間	活動内容	場所	
5/11(月)～5/14(金)	第1次強化合宿	東京都北区	味トレ
6/6(日)～6/7(月)	第2次強化合宿(メディカルチェック)	神奈川県横浜市	横浜市医科学 スポーツセンター
7/10(土)～7/13(火)	第3次強化合宿	千葉県柏市	JX 体育館
7/16(金)～7/25(水)	第1回 U-17FIBA 世界選手権	フランス	

このカテゴリでは初めての大会であった。

予選リーグはゴールアベレージの結果4位でかろうじて通過、選手2名をケガで帰国させるなどアクシデントに見舞われながらもチームが結束し、逆リーグ1位のベルギーや予選リーグで大敗していたロシアなどの強豪を破り、5位入賞を果たした。宮澤、長岡らがランキングの上位にランクするなど、ポテンシャルの高さを見せた。

また、東日本大震災の影響により3月11日～13日の第5次強化合宿を途中中止とした。

◆ユースオリンピック(U-17)

期間	活動内容	場所	
8/10(火)～8/12(木)	第1次強化合宿	東京都北区	味トレ
8/14(土)～8/26(木)	第1回ユースオリンピック(3on3)	シンガポール	

U-17のオリンピックとして初めて開催された大会であった。

日本は予選ラウンド・Dグループに入り、オーストラリア、イタリア、フランス、チリと対戦、最後はゴールアベレージでグループ2位となり決勝トーナメントに進んだ。

決勝トーナメント初戦の準々決勝で中国と対戦したものの3点差で惜敗し惜しくもベスト4入りはならなかった。しかしその後は強豪チームに競り勝ち、最終成績を5位として大会を終えた。

◆U-16

期間	活動内容	場所	
10/18(月)～20(水)	第1次強化合宿	東京都北区	味トレ
11/28(日)～30(火)	第2次強化合宿	東京都北区	味トレ
12/26(日)～29(水)	第3次強化合宿	東京都北区	味トレ
1/2(日)～11(火)	第4次強化合宿(海外遠征)	オーストラリア	キャンベラ
3/11(金)～3/12(土)	第5次強化合宿	愛知県安城市	アイシン AW 体育館

今年度は国際大会はなかったものの、来年度のU-16アジア選手権を見据え、U-15エンデバーの場を借り選手のセレクションを行った。その後数回の合宿を経て、冬休みを利用してオーストラリア遠征を行った。海外遠征は初めての選手ばかりで、海外でのコンディション調整、体の大きさの違いや当たりの強さなど国内ではできない経験を付与することができた。

また、東日本大震災の影響により3月11日～13日の第5次強化合宿を途中中止とした。

◆女子強化部会開催

日にち	場所
5/10(月)	代々木第二体育館 会議室
8/5(木)	岸記念体育会館 504 会議室
10/11(月)	岸記念体育会館 103 会議室
11/8(月)	岸記念体育会館 504 会議室
12/13(月)	岸記念体育会館 504 会議室
3/3(木)	岸記念体育会館 101 会議室

(2)育成

ア. エンデバー委員会活動報告

(ア) 概要

2002年に策定された「エンデバー制度」は、ほぼ全国的にその活動実施の形態が定着してきていると思える。

22年度の活動目標は「エンデバープロジェクト」＝「一貫指導システム」に基づいて、各カテゴリーの円滑な

る事業展開と定めスタートした。エンデバー委員会WGを中心に、目標達成に向けて順次計画通りに進めてきたが、U-18カテゴリーについては、世界選手権大会が創設されたために、「強化」と「エンデバー」の役割分担のコンセンサスを得ない状態で事業の推進を継続する結果となった。それによりコンテンツ(方針)の違いが浮き彫りとなり、課題を残すこととなった。U-15についても今後同様の事が考えられるため、次年度にはその課題解決が必須のこととなる。

特に、男女の技術の再確認が必要であり、強化技術とエンデバー技術の共通点と相違点を分析して互いの持ち場の明確化が急務であると考えられる。

U-12ブロックエンデバー講習会が日本ミニバスケット連盟の全面的な協力のもとで、初の全国展開できたことは成果と言えたが、各ブロック協会とコンセンサスを得るという点では課題が残った。

U-18トップエンデバーは、東日本大震災の影響により、参加選手やスタッフの安全確保を最優先とし、開催中止をやむを得ず判断した。

(イ) 実績報告

- a. U-18・U-15男女ブロックエンデバーの実施
- b. U-14・15男女トップエンデバーの実施
- c. U-12ブロックエンデバー実施
- d. 各会議の開催
 - ・育成部会の開催
 - ・エンデバー委員会WG

イ. 指導者育成委員会活動報告

(ア) 概要

三位一体の重要な柱の一つである指導者養成には、「JABBA変革 21」構想の長期計画として最大の事業であり、次代のオリンピック選手を輩出できるか否かは、今後の日本のバスケット界を左右するものと思えるほど、重要な要因としてこの指導者養成事業を考えていかなければならない。時代を担う優秀な指導者を養成することは急務であり、その計画は更に重要である。

(イ) 活動実績

- a. コーチライセンス制度の改定(理事会承認)
- b. コーチライセンス制度登録規程の改定(理事会承認)
- c. 平成22年度全国指導者育成委員長会議
- d. 指導者育成委員会WG
- e. (財)日本体育協会公認コーチ養成講習会の開催
 - ・専門科目集合講習会(日本協会担当)
 - ・共通科目集合講習会(日本体育協会担当)
 - ※山口国体から完全実施される、『国体監督資格の義務付け』についても確認された。
- f. JBA公認コーチ制度の円滑な運営→各都道府県協会の主導で、日本協会では、申請・登録・認定に関する連絡・通知・指導を行っている。2年に1回開催するリフレッシュ研修会については、開催に伴う地方格差があるため、今後その点を見直すことが課題となる。
- g. 「全国コーチクリニック」をリフレッシュ研修や義務研修の一環として位置付け、指導者育成委員会WGの計画・立案のもと、四国ブロック(愛媛県)と北信越ブロック(新潟県)のご協力をいただきながら、それぞれ

において開催した。

- h、(財)日本体育協会公認バスケットボール指導者(上級コーチ・コーチ・上級指導員・指導員)資格取得者が約4,400人、この他にJBA公認コーチが約12,000人育成されている。(平成22年度末時点)
この多くの指導者に対する、指導資質向上の機会を提供するべく研修等の検討が必要と考え、育成部内に「コーチ委員会」の設置を要望したいと考える。

(ウ) 総括

22年度事業計画について、育成部各ブロック代表理事の後押しを頂戴しながら、エンデバー委員会WG・指導者育成委員会WGの絶大なる実行力で何とか終了することができました。しかしながら、「JABBA変革21」の目指すところには、まだまだ到達できないながらも、「やれるところからやる」といった点について、かなりの実績と成果はあげてきているものと考えています。

育成部の二本柱である「エンデバー委員会」・「指導者育成委員会」のより充実した事業計画を策定し、「チームJAPAN」の一翼を担っていかなければならないと真摯に受け止め、23年度は一段と充実した事業を推進したいと考えております

最後に関係各位のご支援・ご協力に心から感謝を申し上げ報告いたします。

(3) 調査・分析チーム

活動実績

- 1) 定期ミーティング(毎月1回)
- 2) 帯同実績
 - ① 代表チーム帯同情報分析サポート実績
 - ・ 対戦相手チームのスカウティング
 - ・ ビデオの撮影および管理(配信)

【男子代表】

期間	活動内容	場所	担当
7/14 ~ 7/20	ジョーンズカップ	Cタイペイ	末広
7/24 25 27	国際親善試合	日本	望月

【女子代表】

期間	活動内容	場所	担当
6/1 ~ 6/13	女子代表 オーストラリア遠征	オーストラリア	恩塚
6/23 ~ 6/30	U18 アジア選手権	タイ	新井
7/16 ~ 7/25	U17 世界選手権	フランス	新井
8/28 ~ 8/31	女子代表 国際親善試合	北海道 他	恩塚
9/6 ~ 9/18	女子代表 フランス遠征	フランス	尺野
9/23 ~ 10/3	女子代表 世界選手権	チェコ	恩塚
11/18 ~ 11/25	女子代表 アジア競技大会	広州	恩塚

- ② スタッツ傾向分析
- ③ アーカイブ作成（情報の整理と共有の仕組み作り）
 - ・ 国際大会試合映像ビデオ（編集ビデオ）
 - ・ 各大会ボックススコア、メンバー表、その他
 - ・ プレイブック（各国のセットプレイ）
 - ・ 遠征先環境条件（気温・治安・食事他）
 - ・ 日本代表各カテゴリーの数的分析データ
 - ・ 他国強化政策
 - ・ 他国チームの分析データ

(4)味の素ナショナルトレーニングセンター(味の素トレセン)

平成 22 年度強化活動を中心に、日本のバスケットボール強化拠点として各カテゴリーが利用した。

味の素トレセンにはバスケットボール専用トレーニング場およびテクニカルルーム（以下、TR）の設置がされている。味の素トレセンは JOC 管理の下に運営をされており、稼働率の向上が求められている事から、日本代表の活動以外に JBA 加盟団体への貸出も行った。強化活動以外にも会議や研修などで積極的に利用をし、稼働率を上げるよう努めた。今後も日本のバスケットボール強化拠点にふさわしい機能を持つよう体制の構築をしていく。

1) 味の素トレセン施設管理〔全体: JOC、専用施設: 各中央競技団体〕

- ・ 専任コーチ及び専任スタッフの配置
 - ①専任コーチングディレクター
トップアスリート担当 2 名・ジュニアアスリート担当 2 名
 - ②専任メディカルスタッフ
トレーナー 1 名
 - ③専任情報・科学スタッフ 2 名
- ・ 味の素トレセン年間利用料の支払い

2) 強化拠点としての活用

- ・ 各カテゴリー日本代表年間専属利用
- ・ JBA 内利用計画の策定
- ・ JBA 加盟団体等による利用計画の策定
- ・ 備品の手配、管理
- ・ 合宿・遠征用備品の手配、貸出、管理
- ・ 各種情報の収集・分析

3) その他

- ・ JOC・日体協主催事業への協力(スポーツ祭り・北区クリニック 等)

(5) 医科学研究

医科学事業および研究

1. 海外遠征・国際競技会・海外合宿におけるチームドクター派遣;
 - 1) 女子・FIBA U-18 アジア選手権大会 (2010.06 タイ)
 - 2) 女子・FIBA U-17 世界選手権大会 (2010.07 フランス)
 - 3) 男子・ジョーンズカップ (2010.07 チャイニーズタイペイ)
 - 4) 男子・日本代表チーム国際親善試合 (2010.07 愛知・東京・福島)
 - 5) 男子・スタンコビッチカップ (2010.08 レバノン)
 - 6) 女子・日本代表チーム国際親善試合 (2010.08 札幌・仙台・山形)
 - 7) 女子・日本代表チーム海外合宿・国際親善試合 (2010.09 フランス)
 - 8) 女子・FIBA 世界選手権大会 (2010.09-10 チェコ)
 - 9) 男子・FIBA U-18 アジア選手権大会 (2010.09-10 イエメン)
 - 10) 男子女子・アジア競技大会(2010.11 中国・広州)
2. 海外遠征・国際競技会・海外合宿・国内合宿におけるトレーナー派遣;
 - 1) 男子フル代表チーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 2) 女子フル代表チーム海外遠征・国際競技会・海外合宿・国内合宿
 - 3) 男子 U-18 チーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 4) 女子 U-18 チーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 5) 女子 U-17 チーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
3. 代表チームのメディカルチェック;フル代表(男子女子)、U-18 チーム(男子女子)、U-17 チーム(女子)
4. 国内競技会における医事運営および救護活動;
 - 1) JBL2010-2011 シーズン主催試合
 - 2) WJBL2010-2011 シーズン主催試合
 - 3) 全日本学生選手権大会インカレ男子(2010.11)
 - 4) 全国高等学校選抜優勝大会ウインターカップ(2010.12)
 - 5) 全日本総合選手権大会オールジャパン(2011.01)
5. 国内競技会におけるドーピングコントロールの実施;
 - 1) 全日本総合選手権大会オールジャパン
 - 2) JBL 2010-2011 シーズン
 - 3) WJBL 2010-2011 シーズン
6. バスケットボール女子日本リーグ機構(WJBL)を対象とした外傷調査
7. 医科学研究部会およびワーキンググループ会議の開催
8. その他の活動;

日本体育協会スポーツドクター代表者会議出席・養成講習会受講者推薦
日本体育協会アスレチックトレーナー養成講習会受講者推薦
ドーピングコントロールオフィサー養成講習会受講者推薦
バスケットボールトレーナー研修会開催 など

2. 競技会の開催

(1) 国内競技会

1. 『内閣総理大臣杯争奪第39回日本車椅子バスケットボール選手権大会』

期 日 平成22年5月3日(月)～5月5日(水)

開催地: 東京都 渋谷区

参加チーム: 20チーム

順位: 優勝 宮城 MAX(宮城)

準優勝 千葉ホークス(千葉)

3 位 NO EXCUSE(東京)

3 位 富山県 WBC(富山)

試合結果: 準決勝 宮城 MAX 66-51 富山県 WBC

準決勝 千葉ホークス 60-57 NO EXCUSE

3 決 NO EXCUSE 60-57 富山県 WBC

決勝 宮城 MAX 76-46 千葉ホークス

2. 『厚生労働大臣杯争奪 第24回日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会』

期 日 平成22年6月12日(土)～6月13日(日)

開催地: 愛知県 小牧市

参加チーム: 14チーム

順位: 優勝 神奈川ジャンクス

準優勝 沖縄フェニックス

3 位 KINGS

3 位 千葉ピーナッツ

試合結果: 準決勝 沖縄 66-40 KINGS

準決勝 神奈川 66-59 千葉

決勝 神奈川 72-62 沖縄

3. 『第29回全国ママさんバスケットボール交歓大会』

期 日: 平成22年7月23日(金)～7月25日(日)

開催地: 北海道 北見市

参加チーム: 70チーム(一般: 46チーム、シニア: 24チーム)

順位および: <一般> 優勝チーム

試合結果	Aブロック ZERO(大阪)	47-42	エンドレス(兵庫)
	Bブロック 緑地クラブ A(東京)	36-18	北見(北海道)
	Cブロック MBC・一般(青森)	47-46	マザーズ(埼玉)
	Dブロック HOPI T-REX(神奈川)	34-32	Marchin's(京都)
	Eブロック KALEIDO SCOPE(神奈川)	47-35	Mother Goose Neo(千葉)
	Fブロック BELLES(千葉)	50-49	FREE(静岡)

<シニア>優勝チーム

Gブロック 緑地クラブ B(東京)	22-21	長野クラブシニア(長野)
Hブロック Mother Goose(千葉)	37-25	FRESH(北海道)
Iブロック ハブティダンブティS(千葉)	37-9	アゲインズ PLUS(兵庫)

4. 『平成22年度第20回全国高等学校定時制通信制バスケットボール大会』

期 日:平成22年7月28日(水)~7月31日(土)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム: 男子 46チーム 女子 35チーム

順 位:	優 勝	兵庫県立西宮香風高等学校(兵庫)	天理高等学校 第二部(奈良)
	準優勝	石川県立金沢泉丘高等学校(通)(石川)	静岡県立静岡中央高等学校(静岡)
	3 位	北海道札幌南高等学校(北海道)	宮城県立貞山高等学校(宮城県)
	3 位	東京都立足立高等学校(東京)	横浜市立横浜総合高等学校(神奈川県)
試合結果:	準決勝	西宮香風 102-82 札幌南	天理(二部) 79-50 貞山
	準決勝	金沢泉丘 68-63 足立	静岡中央 90-67 横浜総合
	決 勝	西宮香風 87-62 金沢泉丘	天理(二部) 80-47 静岡中央

5. 『平成22年度全国高等学校総合体育大会・第63回全国高等学校バスケットボール選手権大会』

期 日:平成22年7月29日(木)~8月3日(火)

開 催 地:沖縄県 沖縄市、西原市

参加チーム: 男子 59チーム 女子 59チーム

順 位:	優 勝	八王子高等学校(東京)	札幌山の手高等学校(北海道)
	準優勝	明成高等学校(宮城)	中村学園女子高等学校(福岡)
	3 位	京北高等学校(東京)	明成高等学校(宮城)
	3 位	東海大付属第三高等学校(長野)	県立金沢総合高等学校(神奈川県)
試合結果:	準決勝	八王子 66-53 東海大三	札幌山の手 96-61 金沢総合
	準決勝	明成 70-67 京北	中村学園 72-65 明成
	決 勝	八王子 67-66 明成	札幌山の手 98-74 中村学園

6. 『2010FIDジャパン・チャンピオンシップバスケットボール大会(第15回)』

期 日:平成22年7月31日(土)~8月1日(日)

開 催 地:大阪府 大阪市

参加チーム: 男子Aリーグ 12チーム 女子 10チーム

順 位:	優 勝	PWLメイジャーズ(神奈川)	つばさクラブ(東京)
	準優勝	秋田県チーム(秋田)	春日井クラブ(愛知)
	3 位	つばさクラブ(東京)	豊田クラブ(愛知)
	4 位	フューチャーズ埼玉)	BSC 出雲(島根)
試合結果:	準決勝	PWL 89-49 フューチャーズ	つばさ 72-48 豊田

準決勝	秋田県 86-74 つばさクラブ	春日井 63-44 BSC 出雲
3 決	つばさクラブ 85-79 フューチャーズ	豊田 50-37 BSC 出雲
決勝	PWL 61-45 秋田県チーム	つばさ 78-55 春日井

参加チーム: 男子Bリーグ 8チーム

順位:優勝 つばさクラブB(東京)

準優勝 安城クラブ(愛知)

3 位 春日井 Jr(愛知)

4 位 半田 BBC(愛知)

試合結果: 3決 春日井 Jr 73-44 半田

決勝 つばさ 94-26 安城

7. 『第48男子・第40回女子全日本教員バスケットボール選手権大会』

(おいでませ!山口国体バスケットボール競技リハーサル大会)

期 日:平成22年8月9日(月)~8月12日(木)

開催地:山口県 防府市、下松市

参加チーム:	男子 41チーム	女子 25チーム
順位:優勝	滋賀教員	千葉女子教員A
準優勝	愛知教員チーム男子A	東京教員 GOOD JOB
3 位	愛媛教員	熊本女子教員クラブ
3 位	東京教員 T-REX	千葉女子教員B
試合結果:準決勝	滋賀 69-68 愛媛	千葉 A 89-47 千葉B
準決勝	愛知 79-59 東京	東京 98-77 熊本
決勝	滋賀 90-67 愛知	千葉 A 74-60 東京

8. 『ALL JAPAN 3on3 BASKETBALL (JBA33) 2010 in OSAKA』

期 日:平成22年8月15日(日)

開催地:大阪府 大阪市

参加チーム:	男子 40チーム	女子 32チーム
順位:優勝	BUBBLES(兵庫)	RONMENS(神奈川)
準優勝	Goppachi(石川)	MINAMI(長野)
3 位	PIECE(大阪)	BISCUIT 2(埼玉)
3 位	TENNERS(大阪)	仙台大学(宮城)
試合結果:準決勝	BUBBLES 33-30 PIECE	RONMENS 33-30 仙台大学
準決勝	Goppachi 33-16 TENNERS	MINAMI 34-14 BISCUIT 2
決勝	BUBBLES 33-28 Goppachi	RONMENS 34-25 MINAMI

9. 『第40回全国中学校バスケットボール大会』

期 日:平成22年8月22日(日)~8月25日(水)

開催地:広島県 広島市、廿日市市

参加チーム:	男子 24チーム	女子 24チーム
順位:優勝	新発田市立本丸中学校(新潟)	名古屋市立若水中学校(愛知)
準優勝	筑紫野市立筑紫野中学校(福岡)	北九州市立高見中学校(福岡)
3位	弘前市立津軽中学校(青森)	大分市立南大分中学校(大分)
3位	京北中学校(東京)	新潟市立鳥屋野中学校(新潟)
試合結果:準決勝	本丸 45-44 津軽	若水 87-62 南大分
準決勝	筑紫野 77-74 京北	高見 65-53 鳥屋野
決勝	本丸 69-63 筑紫野	若水 84-76 高見

10. 『平成22年度全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技』

期 日:平成22年8月21日(土)~8月22日(日)

開催地:岐阜県 岐阜市

参加チーム:	男子 12チーム	女子 8チーム
順位:優勝	松江工業高等専門学校(島根)	鈴鹿工業高等専門学校(三重)
準優勝	近畿大学工業高等専門学校(三重)	有明工業高等専門学校(福岡)
3位	群馬工業高等専門学校(群馬)	神戸市立工業高等専門学校(兵庫)
3位	鈴鹿工業高等専門学校(三重)	宇部工業高等専門学校(山口)
試合結果:準決勝	近畿 82-66 鈴鹿	鈴鹿 86-35 宇部
準決勝	松江 112-53 群馬	有明 52-33 神戸市立
決勝	松江 82-50 近畿	鈴鹿 77-58 有明

11. 『第15全国専門学校バスケットボール選手権大会』

期 日:平成22年8月24日(火)~8月28日(土)

開催地:愛知県 豊田市

参加チーム:	男子 16チーム	女子 12チーム
順位:優勝	アップルスポーツカレッジ	東京スポーツ・レクレーション専門学校
準優勝	尚学院国際ビジネスアカデミー	大阪社会体育専門学校
3位	履正社医療スポーツ専門学校	専門学校北海道体育大学校
4位	北海道千歳リハビリテーション専門学校	大阪リゾート&スポーツ専門学校
試合結果:準決勝	アップル 110-31 北海道	東京スポ・レク 127-52 大阪リゾ・スポ
準決勝	尚学院 110-78 履正社	大阪社体 80-63 北海道
3位	履正社 97-59 北海道	北海道 64-62 大阪リゾ・スポ
決勝	アップル 84-78 尚学院	東京スポ・レク 86-62 大阪社体

12. 『日本バスケットボールリーグ2010-2011(JBL)』

期 日 平成22年9月17日(金)~平成23年4月28日(金)

開催地 全国各地

参加チーム: 8チーム

- 順位: 1位 アイシンシーホース
 2位 パナソニックトライアンズ
 3位 トヨタ自動車アルパルク
 4位 東芝ブレイブサンダース

備考:「東日本大震災」に伴い、レギュラーシーズンの開催中止を決定。レギュラーシーズンの2/3を終了していることから、2011年3月6日終了時点での記録を最終成績とした。プレーオフが開催されなかったため、「優勝(シーズンチャンピオン)・準優勝・3位」はなしとする。

13. 『日本スポーツマスターズ2010』

期 日 平成22年9月18日(土)～9月21日(火)

開催地:三重県 伊勢市

参加チーム:	男子 46チーム	女子 21チーム
順位:優勝	東京	千葉
準優勝	千葉	埼玉
3位	新潟A	三重
3位	石川A	東京
試合結果:準決勝	東京 69-29 新潟A	千葉 83-35 三重
準決勝	千葉 65-54 石川A	埼玉 73-45 東京
決勝	東京 66-49 千葉	千葉 65-60 埼玉

14. 『第65回国民体育大会』

期 日:平成22年9月26日(日)～9月30日(木)

開催地:千葉県 千葉市、八千代市

参加チーム:	成年男子 12チーム	成年女子 12チーム
順位:優勝	千葉	千葉
準優勝	福岡	熊本
3位	兵庫	山形
3位	東京	大阪
試合結果:準決勝	千葉 81-64 兵庫	千葉 70-66 山形
準決勝	福岡 69-64 東京	熊本 75-65 大阪
決勝	千葉 65-62 東京	千葉 82-69 熊本
参加チーム:	少年男子 47チーム	少年女子 12チーム
順位:優勝	福岡	北海道
準優勝	京都	福岡
3位	静岡	神奈川
3位	滋賀	千葉
試合結果:準決勝	福岡 86-65 静岡	北海道 76-66 神奈川
準決勝	京都 108-70 滋賀	福岡 77-59 千葉

決勝 福岡 93-82 京都

北海道 84-82 福岡

15. 『第12回Wリーグ(WJBL)』

期 日:平成22年10月8日(金)~平成23年3月17日(木)

開 催 地:全国各地

参加チーム: Wリーグ 8チーム

順 位: 1 位 JX サンフラワーズ(セミファイナル勝者・レギュラーシーズン上位)
2 位 トヨタ自動車 アンテロップス(セミファイナル勝者・レギュラーシーズン下位)
3 位 デンソー アイリス(セミファイナル敗者・レギュラーシーズン上位)
4 位 富士通 レッドウェーブ(セミファイナル敗者・レギュラーシーズン下位)

備 考:「東日本大震災」に伴い、プレーオフ・ファイナルは第1戦をもって終了し、第2戦以降の試合は中止とし、ファイナルは不成立とする。

参加チーム: Wリーグ 5チーム

順 位: 1 位 三菱電機 コアラーズ
2 位 トヨタ紡織 サンシャインラビッツ
3 位 エバラヴィッキーズ
4 位 山梨クィーンビーズ

16. 『JBL2 2010-2011』

期 日:平成22年10月9日(土)~平成23年3月27日(日)

開 催 地 全国各地

参加チーム: 8チーム

順 位: 1 位 豊田通商ファイティングイーグルス
2 位 アイシン・エイ・ダブリュ アレイオンズ安城
3 位 TGI・D ライズ
4 位 レノヴァ鹿児島

備 考:「東日本大震災」に伴い、レギュラーシーズンの開催中止を決定。レギュラーシーズンの2/3を終了していることから、2011年3月6日終了時点での記録を最終成績とした。プレーオフが開催されなかったため、「優勝(シーズンチャンピオン)・準優勝・3位」はなしとする。

17. 『第21回日本女子車椅子バスケットボール選手権大会』

期 日 平成22年10月30日(土)~10月31日(日)

開 催 地:兵庫県 神戸市

参加チーム: 8チーム

順 位:優勝 WING(関東)
準優勝 カクテル(近畿)
3 位 SCRATCH(東北)
4 位 Brilliant Cats(東海北陸)

試合結果：準決勝 カクテル 54-50 SCRATCH
 準決勝 WING 60-37 Brilliant Cats
 3 決 SCRATCH 48-38 Brilliant Cats
 決 勝 WING 57-51 カクテル

18. 『第6回全日本社会人バスケットボール選手権大会』

期 日：平成22年11月6日(土)～11月7日(日)

開 催 地：高知県 高知市

参加チーム：	男子 16チーム	女子 8チーム
順 位：優勝	九州電力(九州:実業団5位)	山形銀行(東北:実業団1位)
準優勝	日本無線(関東:実業団4位)	鶴屋百貨店(九州:実業団2位)
3位	JR東日本秋田(東北:実業団3位)	千葉女子教員(千葉:教員1位)
4位	曙ブレーキ工業(実業団:6位)	秋田銀行(東北:実業団3位)

試合結果：準決勝	九州電力 76-73	JR東日本秋田	山形銀行 90-63	千葉女子教員
準決勝	日本無線 75-55	曙ブレーキ	鶴屋百貨店 79-76	秋田銀行
3 決	JR東日本秋田 86-75	曙ブレーキ	千葉女子教員 88-70	秋田銀行
決 勝	九州電力 70-63	日本無線	山形銀行 77-45	鶴屋百貨店

19. 『第3回全日本クラブシニアバスケットボール選手権大会 兼
 第3回全日本クラブスーパーシニアバスケットボール交歓大会』

期 日：平成22年11月20日(土)～11月21日(日)

開 催 地：新潟県 新潟市

参加チーム：	シニア 16チーム	スーパーシニア 12チーム		
順 位：優勝	高崎マスターズ(群馬)	にいがた(新潟)		
準優勝	千葉 GOLD FIVE(千葉)	茨城シニアスピリッツ(茨城)		
3位	福島(福島)	旭川ドラゴンカーズ(北海道)		
3位	長野選抜(長野)	伊豆の国市体協田方クラブ(静岡)		
試合結果：準決勝	千葉 75-66	長野	シニアキャロップス 58-41	旭川
準決勝	高崎 72-39	福島	にいがた 68-55	伊豆の国市体協田方
決 勝	高崎 65-56	千葉	にいがた 55-48	シニアキャロップス

20. 『第62回全日本大学バスケットボール選手権大会(女子)』

期 日：平成22年11月22日(月)～11月28日(日)

開 催 地：兵庫県 尼崎市

参加チーム：	32チーム
順 位：優勝	拓殖大学
準優勝	愛知学泉大学
3 位	筑波大学

4 位	船橋市立船橋高等学校(千葉)	大阪薫英女子高等学校(大阪)
試合結果:準決勝	福岡第一 108-68 市立船橋	札幌山の手 96-46 東京成徳
準決勝	北陸 83-75 京北	中村学園 75-64 大阪薫英
3 決	京北 92-91 市立船橋	東京成徳 66-61 大阪薫英
決勝	北陸 68-60 福岡第一	札幌山の手 97-59 中村学園

24. 『第86天皇杯・第77回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会』

期 日:平成23年1月2日(日)~1月10日(月・祝)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム:	男子 32チーム	女子 32チーム
順 位:優勝	アイシンシーホース	JXサンフラワーズ
準優勝	パナソニックトライアンズ	富士通 レッドウェーブ
3 位	日立サンロッカーズ	デンソー アイリス
3 位	トヨタ自動車アルバルク	トヨタ自動車 アンテロープス
試合結果:準決勝	アイシン 67-60 日立	JX 70-61 デンソー
準決勝	パナソニック 79-76 トヨタ	富士通 74-72 トヨタ
決勝	アイシン 81-74 パナソニック	JX 73-68 富士通

25. 『第42回全日本実業団バスケットボール選手権大会』

期 日:平成23年2月11日(金)~2月14日(月)

開 催 地:長崎県 長崎市

参加チーム:	男子 32チーム	女子 16チーム
順 位:優勝	九州電力	山形銀行
準優勝	横河電機	鶴屋百貨店
3 位	日本無線	秋田銀行
3 位	JR東日本秋田	三井住友銀行
試合結果:準決勝	横河電機 74-65 日本無線	山形銀行 68-57 三井住友銀行
準決勝	九州電力 73-63 JR東日本秋田	鶴屋百貨店 64-56 秋田銀行
決勝	九州電力 77-58 横河電機	山形銀行 73-60 鶴屋百貨店

26. 『第9回全日本デフバスケットボール選手権大会(ミミリーグ)』

期 日 平成22年3月18日(土)~3月20日(日)

開 催 地:福岡県 福岡市

※「東日本大震災」の影響により、大会中止。

27. 『第37回全日本クラブバスケットボール選手権大会』

期 日:平成23年3月19日(土)~3月21日(月)

開 催 地:静岡県 静岡市

※「東日本大震災」の影響により、大会中止。

28. 『平成21年度 第23回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会』

期 日:平成23年3月28日(月)～3月30日(水)

開 催 地:東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

※「東日本大震災」の影響により、大会中止。

29. 『第42回全国ミニバスケットボール大会』

期 日:平成23年3月29日(火)～3月31日(木)

開 催 地:埼玉県 さいたま市

※「東日本大震災」の影響により、大会中止。

(2) 国体部

1) 国体部会

① 期日:平成22年5月17日(月) 13:30～

② 内容: ● 千葉国体関連

● 岐阜国体(平成24年)以降の参加チームの見直し

● 国体改革検討委員会(仮称)の立ち上げ

● 国体部年間スケジュール

● 21年度国体部事業報告

2) 日体協(西田国体推進部長)との意見交換会 15:30～

① 期日:平成22年5月17日(月)

② 内容: ● 岐阜国体以降の参加チームの見直し(経過報告)

● 見直しに伴う手続き等(国体開催基準要項等)

● 中学生の参加

3) 千葉国体公式球<通知>

① 期日:平成22年7月2日

② 内容: ● 成年男子 7号球 12面体 モルテン BGL7

● 成年女子 6号球 12面体 モルテン BGL6

● 少年男子 7号球 8面体 ミカサ CF7000

● 少年女子 6号球 8面体 ミカサ CF6000

4) 第66回 平成23年「山口国体」リハーサル大会

① 期日:平成22年8月8日(日)～12日(木)

② 場所:山口県 防府市・下松市

③ 内容: ● 国体に向けた運営の確認

● 8/9(月) 四者会議の実施 (教員連盟・山口県・岐阜県・日本協会)

5) 千葉国体抽選会

- ① 日時: 平成 22 年 9 月 4 日(土) 14:00～
- ② 場所: 岸記念体育会館 103 会議室
- ③ 内容: ● 抽選者:(財)日本体育協会 国体委員 豊島 吉博
- ④ 関連: ● リハーサル 9/3(金)13:00～東京体育館会議室
- 千葉国体最終打合せ 9/4(土)16:00～ 岸記念体育会館 103 会議室

6) 第 1 回国体検討委員会

- ① 日時: 平成 22 年 9 月 4 日(土) 18:00～
- ② 場所: 代々木第二体育館会議室
- ③ 内容: ● 中学生の参加／国体少年の部の構成を U-16(高校 1 年＋中学 3 年)とする案
- 少年の部は 2 年に 1 回、都道府県 47 対抗 成年の部は、毎年ブロック
- 新ルールの採用に関する件
- ブロック 12 チームを 16 チームに変更する件

7) 第 65 回 平成 22 年「千葉国体」

- ① 期日: 平成 22 年 9 月 26 日(日)～9 月 30 日(木)
- ② 場所: 千葉県 船橋市、八千代市
- ③ 内容: ● 代表者会議 9 月 25 日(土)15:00～ 船橋グランドホテル会議室
- 審判会議 9 月 25 日(土)16:00～ 船橋グランドホテル会議室
- 第 66 回 平成 23 年「山口国体」リハーサル大会 4 者会議(日本協会、教員連盟、開催地、次期開催地)
9 月 26 日(日) 18:30～ 船橋グランドホテル会議室
- イベント事業 9 月 29 日(水) 成年男子決勝の実況解説

8) 第 71 回 平成 28 年「岩手国体」正規視察

- ① 期日: 平成 22 年 10 月 27 日(水)～28 日(木)
- ② 内容: ● チーム数変更検討中であることの説明
- 器具・施設・準備状況等

9) 国体部会

- ① 期日: 平成 22 年 11 月 25 日(木) 16:00～
- ② 内容: ● 中学生の参加／国体少年の部の構成を U-16(高校 1 年＋中学 3 年)とする案
- ブロック 12 チームを 16 チームに変更する件

10) 第 2 回 国体検討委員会

- ① 日時: 平成 22 年 11 月 30 日(火) 16:00～
- ② 場所: 岸記念体育会館 505 会議室
- ③ 内容: ● 中学生の参加／国体少年の部の構成を U-16(高校 1 年＋中学 3 年)とする案
- ブロック 12 チームを 16 チームに変更する件

11) 第3回 国体検討委員会

- ① 日時: 平成23年1月26日(水) 14:00～
- ② 場所: 岸記念体育会館 102 会議室
- ③ 内容: ● 中学生の参加/国体少年の部の構成をU-16(高校1年+中学3年)とする案
● ブロック12チームを16チームに変更する件

12) 岩手国体追加視察

- ① 日時: 平成23年2月9日(水) 14:00～
- ② 場所: 岩手県 一関市
- ③ 内容: ● 東山総合体育館視察
● ブロック12チームを16チームに変更する件

(3) 日本スポーツマスターズ委員会

1. 日本スポーツマスターズ第1回中央競技団体連絡協議会
期 日:平成22年4月22日(木)13時
場 所:岸記念体育館2階会議室
議 題:日本スポーツマスターズ2010三重大会について

2. 平成22年度第1回日本スポーツマスターズ委員会
期 日:平成22年6月8日(火)13時
場 所:岸記念体育館2階会議室
議 題:①日本スポーツマスターズ2010三重大会準備状況について
②日本スポーツマスターズ2011石川大会競技会場について

3. 日本スポーツマスターズ2010三重大会組合せ抽選会
期 日:平成22年8月2日(月)13時
場 所:岸記念体育館504号会議室

4. 日本スポーツマスターズ2010三重大会開催
期 日:平成22年9月17日(金)～21日(火)
場 所:三重県伊勢市サンアリーナ
参加チーム:男子43チーム・女子19チーム

5. 日本スポーツマスターズ2011石川大会現地会場視察及び打合せ
期 日:平成22年11月26日(金)13時
場 所:石川県金沢市・野々市町
テーマ:1)大会会場及び器具関係視察

2)現状での問題点の把握と指導・助言

6. 日本スポーツマスターズ委員会第2回中央競技団体連絡協議会

期 日:平成22年12月9日(木)13時

場 所:岸記念体育館2階会議室

議 題:日本スポーツマスターズ2010三重大会終了について

7. 平成22年度第2回日本スポーツマスターズ委員会

期 日:平成23年3月1日(火)14時

場 所:岸記念体育館2階会議室

議 題:①日本スポーツマスターズ2011石川大会準備状況について

②日本スポーツマスターズ2012高知大会競技会場について

8. その他の活動目標

①日本体育協会との連携強化による関係向上

②各都道府県からの要望意見を把握し、対策の立案

③各都道府県の参加向上に関する啓蒙活動

④普及部・クラブ連盟・家庭婦人連盟との連携強化

⑤シニア対策に関する調査

3. 国際競技会の開催及び代表チームの派遣

(1)国際(国内開催)

1. 『(財)バスケットボール協会創立80周年記念/スカイ・A開局20周年記念

バスケットボール男子日本代表国際親善試合2010』

期 日:平成22年7月24日(土)～7月27日(火)

開 催 地:愛知県 豊田市、東京都 墨田区、福島県 須賀川市

参加チーム:日本代表、レバノン代表

試合結果 : 豊田大会 日本 87-92 レバノン

東京大会 日本 79-77 レバノン

須賀川大会 日本 80-93 レバノン

2. 『(財)バスケットボール協会創立80周年記念/スカイ・A開局20周年記念

バスケットボール男女子日本代表国際親善試合2010

兼 2010年FIBA女子バスケットボール世界選手権大会壮行試合』

期 日:平成22年8月28日(土)～8月31日(火)

開 催 地:北海道 札幌市、宮城県 仙台市、山形県 山形市

参加チーム:日本代表、ニュージーランド代表

試合結果 : 札幌大会 日本 74-77 ニュージーランド

仙台大会 日本 99-69 ニュージーランド
山形大会 日本 86-71 ニュージーランド

(2) 国際(国外開催)

1. 『第33回李相佰杯争奪 日韓学生バスケットボール競技大会』

期 日:平成22年5月21日(金)~5月23日(日)

開 催 地:韓国 ソウル

参加チーム: 男子 2チーム

順 位:優 勝 韓国学生選抜(2勝1敗)

準優勝 日本学生選抜(1勝2敗)

試合結果 : 第1戦 韓国 87-56 日本

第2戦 日本 60-52 韓国

第3戦 韓国 68-58 日本

2. 『2010年日韓ママさんバスケットボール親善大会』

期 日:平成22年5月21日(金)~5月23日(日)

開 催 地:韓国 ソウル

参加チーム: 3チーム

試合結果 : 第1戦 日本 26-45 韓国A

第2戦 日本 42-75 韓国B

3. 『第20回 FIBA アジア U-18 女子バスケットボール選手権大会』

(兼 FIBA U-19男子世界バスケットボール選手権大会アジア地区予選)

期 日:平成22年6月23日(水)~6月30日(水)

開 催 地:タイ スラータニー

参加チーム: 女子 12チーム

順 位:優 勝 中国

準優勝 日本

3 位 チャイニーズ・タイペイ

試合結果 : 予選ラウンド

日本 73-72 中国

日本 118-52 カザフスタン

日本 98-63 マレーシア

日本 84-53 韓国

日本 67-62 チャイニーズ・タイペイ

準決勝

日本 67-60 韓国

決勝

日本 78-122 中国

※第9回 FIBA U-19 女子バスケットボール世界選手権出場権獲得

4. 『第32回男子ジョーンズカップ』

期 日:平成22年7月13日(火)～7月21日(水)

開 催 地:チャイニーズ・タイペイ 台北

参加チーム: 男子 7チーム

順 位:優勝 イラン(6勝0敗)

準優勝 レバノン(5勝1敗)

3 位 日本(4勝2敗)

試合結果 :

日本 82-87 レバノン

日本 97-69 西オーストラリア選抜

日本 73-77 イラン

日本 94-85 チャイニーズ・タイペイ

日本 84-74 フィリピン

日本 83-67 チャイニーズ・タイペイ大学選抜

日本 33-10 モンゴル

5. 『第1回FIBA U-17女子世界バスケットボール選手権大会』

期 日:平成22年7月16日(金)～7月25日(日)

開 催 地:フランス ロデス、トゥールーズ

参加チーム: 12チーム

順 位:優勝 アメリカ

準優勝 フランス

3 位 中国

5 位 日本

試合結果 : 予選ラウンド

日本 68-93 ロシア

日本 87-80 カナダ

日本 80-60 トルコ

日本 67-70 フランス

日本 71-133 アメリカ

決勝トーナメント

日本 70-93 ベルギー

日本 95-92 オーストラリア

日本 74-68 ロシア

5位決定戦

日本 74-48 オーストラリア

6. 『第3回FIBA アジアスタンコピッチカップ』

期 日:平成22年8月7日(土)～8月15日(日)

開 催 地:レバノン ベイルート

参加チーム: 10チーム

順 位:優勝 レバノン

準優勝 日本

3 位 カタール

4 位 フィリピン

試合結果 : 予選ラウンド

日本 61-58 チャイニーズ・タイペイ 日本 68-72 イラン

日本 100-57 カザフスタン 日本 87-72 イラク

日本 71-133 アメリカ

決勝トーナメント

日本 94-80 ヨルダン

日本 78-76 カタール

決勝

日本 59-97 レバノン

7. 『第1回ユースオリンピックゲームズ』

期 日: 平成22年8月14日(土)~8月26日(木)

開催地: シンガポール

参加チーム: 女子20チーム

順位: 優勝 イラン

準優勝 中国

3 位 チャイニーズ・タイペイ

5 位 日本

試合結果 : 予選ラウンド

日本 17-26 イタリア 日本 17-10 オーストラリア

日本 24-17 チリ 日本 20-34 フランス

決勝トーナメント

日本 23-26 中国

5-8位決定戦

日本 28-16 ドイツ

5-6位決定戦

日本 32-29 ブラジル

8. 『第18回日・韓・中ジュニア交流競技会』

期 日: 平成22年8月25日(水)~8月27日(金)

開催地: 中国 鄭州

参加チーム: 男子 4チーム

女子 4チーム

試合結果 : 日本 90-75 韓国

日本 60-64 韓国

日本 73-66 鄭州選抜

日本 81-46 鄭州選抜

日本 65-100 中国

日本 54-100 中国

9. 『第21回FIBAアジアU-18男子バスケットボール選手権大会』

(兼 FIBA U-19男子世界バスケットボール選手権大会アジア地区予選)

期 日:平成22年9月22日(水)～10月1日(金)

開 催 地:イエメン サヌア

参加チーム: 16チーム

順 位:優 勝 中国

準優勝 韓国

3 位 チャイニーズ・タイペイ

8 位 日本

試合結果 :予選ラウンド

日本 89-72 インド

日本 78-62 イラク

日本 68-64 イエメン

2次ラウンド

日本 77-69 シリア

日本 57-75 フィリピン

日本 59-84 中国

決勝トーナメント

日本 73-86 韓国

5-8決定戦

日本 86-91 フィリピン

7-8決定戦

日本 65-67 レバノン

10. 『第16回FIBA女子世界バスケットボール選手権大会』

期 日:平成22年9月23日(木)～10月3日(日)

開 催 地:チェコ ブルノ、オストゥラヴァ、カルロヴィ・ヴァリ

参加チーム: 16チーム

順 位:優 勝 アメリカ

準優勝 チェコ

3 位 スペイン

10位 日本

試合結果 :予選ラウンド

日本 63-86 ロシア

日本 59-58 アルゼンチン

日本 60-66 チェコ

2次ラウンド

日本 59-86 スペイン

日本 64-65 韓国

日本 91-93 ブラジル

9-12決定戦

日本 63-59 ギリシャ

9-10決定戦

日本 79-84 ブラジル

11. 『アジア競技大会』

期 日:平成22年11月12日(金)～11月27日(土)

開 催 地:中国 広州

参加チーム:男子 18チーム

順 位:優勝 中国
準優勝 韓国
3 位 イラン
4 位 日本

試合結果 :

予選ラウンド

日本 63-57 チャイニーズ・タイペイ

日本 57-56 イラン

日本 60-58 フィリピン

日本 87-88 カタール

日本 85-58 インド

準々決勝

日本 92-75 北朝鮮

準決勝

日本 51-55 韓国

3位決定戦

日本 66-74 イラン

参加チーム:女子 7チーム

順 位:優勝 中国
準優勝 韓国
3 位 日本

試合結果 :

予選ラウンド

日本 69-59 チャイニーズ・タイペイ

日本 143-19 モルジブ

準決勝

日本 78-93 韓国

3位決定戦

日本 73-61 チャイニーズ・タイペイ

4. 国際関係

<国際部>

1. 国内開催各大会等の支援

- 1) 日本車椅子選手権大会(5月3日～5日:東京)
- 2) 男子国際招待大会(7月22日～29日:豊田市ほか)
- 3) 女子国際招待大会(8月26日～9月1日:札幌市ほか)

2. 大会参加チームの支援

- 1) 第25回男子U-18 アルバート・シュバイツァー国際選手権(2010年3月29日～4月12日:ドイツ)
- 2) 第20回 FIBA アジア・女子U-18 選手権大会(6月23日～6月30日:タイ)
- 3) 第1回FIBA・U-17 男子世界選手権大会(7月2日～7月11日:ドイツ)
- 4) 第32回男子ジョーンズカップ(7月14日～20日:タイペイ)
- 5) 第1回 FIBA・U-17 女子世界選手権大会(7月16日～7月25日:フランス)
- 6) 第1回ユースオリンピックゲームズ:女子(8月14日～9月12日:シンガポール)
- 7) 第21回FIBAアジア・男子U-18選手権大会(9月23日～10月1日:イエメン)
- 8) 第16回FIBA女子世界選手権大会(9月23日～10月3日:チェコ)
- 9) 第3回 FIBA アジア・スタンコピッチカップ(8月7日～8月15日:レバノン)
- 10) 第16回アジア競技大会(11月12日～11月27日:中国)

3. 国際会議等出席

- 1) FIBA アジア役員会議(5月28日～31日:ドーハ)
- 2) FIBAアジア常務理事会・中央理事会・総会(6月17日～21日:クアラルンプール)
- 3) 男子NT 招待チーム役員(中国・東莞T)(7月5日:東京)
- 4) FIBA アジア役員会議(7月18日～20日:台北)
- 5) FIBA アジア東南アジアサブゾーン会議(7月5日～8日:ソコ)
- 6) FIBA アジア役員会議(8月9日～16日:ペイルート)
- 7) FBA アジア役員会議(9月23日～28日:サヌア)
- 8) 国際親善女子車椅子バスケットボール選手権大会代表者会議(2011年2月2日:大阪)

4. FIBA/FIBA アジア役員等対応

- 1) FIBA アジア役員(10月30日～11月3日:長崎・大村)
- 2) シンガポール協会役員(11月27日～28日:大阪)
- 3) FIBA アジア常務理事会(12月20日～24日:クアラルンプール)
- 4) FIBA・FIBA アジア役員(1月22日～24日:長崎・大村)
- 5) オーストラリア協会役員(2011年2月3日:大阪)
- 6) IWBf 役員(2011年2月4日:大阪)

【注】

日常の書業務等については省略。

5. 講習会及び指導者養成

(1) 公認スポーツ指導者養成

「1. 技術の調査研究」の中で報告済み。

(2) 規則・審判事業

<審判規則部>

1. 全国審判長会議

期日:平成22年4月3日(土)～4月4日(日)

参加者:全国各都道府県審判長、ブロック審判長、審判指導員、審判審査部、審判規則部会メンバー

場所:東京都

内容:①平成21年度審判部会事業報告及び22年度事業計画発表

②平成21年度審判部会決算報告及び22年度予算報告発表

③競技規則変更点等の講義、規則に関する質疑応答

④日本協会公認審判審査委員会及び各連盟、委員会からの報告

⑤ブロック別審判長会議

2. ブロック審判長会議

期日:第1回 平成22年4月3日(土) (東京都)

第2回 平成22年9月25日(土) (千葉県船橋市)

参加者:各ブロック審判長(10名)、及び審判規則部長、副部長、総務委員他

内容:①各ブロックの状況報告

②22年度第1次A級指名強化招集者の選考、女性(A級)審判強化合宿招集者の選考

③A級及び女性審判の指導育成について

④22年度下半期の行事の確認及び、23年度行事案の検討(第2回開催時)

⑤国際審判員早期受検及び研修システムについて(第2回開催時)

3. A級研修合宿

期日:平成22年6月～平成23年2月(全国各ブロック開催地)

講師:審判規則部指導委員

参加者:A級公認審判員(A級候補者も可)

内容:A級公認審判員としての意識向上と技術の全国標準化を図るための研修会(研修内容は各ブロック主導で企画)派遣要請のあったブロックに講師派遣。また全国のA級審判員や指導者との共通理解を深める意味で、「審判指導・評価マニュアル」を作成して全国に配布を行った。

4. FIBA-ASIA クリニック(国際審判員・コミッショナー新規受験)

期日:平成22年12月17日(金)～19日(日)(国際審判員)

場所:シンガポール

講師:Lubomir Kotleba 氏(FIBA・スポーツディレクター)

参加者:国際審判員新規受講者1名(小坂井郁子/神奈川県)受講(合格)その他、オブザーバー1名参加

内容:講義、審判実技テスト、英文ルールテスト、語学力テスト、体力テスト

5. A 級強化合宿(フレッシュマン研修)

期日:平成 22 年 4 月 24 日(土)、25 日(日)、5 月 1 日(土)

場所:東京都(府中市)

講師:審判規則部指導委員

参加者:平成 22 年度 A 級公認男性新規昇格者 16 名

内容:新規昇格者を対象に、A 級審判員としての心構えや、実戦の試合を通して審判技術の向上等を研修する。またルールテスト、英会話テストを実施し評価の高い者を第 2 次 A 級指名強化合宿へ推薦。

6. 第 1 次 A 級(男性)指名強化合宿

期日:平成 22 年 4 月 24 日(土)、25 日(日)、5 月 1 日(土)、2 日(日)

場所:東京都(府中市)

講師:審判規則部指導委員

参加者:男性 A 級公認審判員 21 名(各ブロックからの推薦者)

内容:実戦ゲームにより判定基準、ゲームコントロール等を評価し、評価の高い者を第 2 次 A 級指名強化合宿へ推薦。

7. 女性審判強化合宿

期日:平成 22 年 7 月 17 日(木)~7 月 20 日(火)

場所:三重県伊勢市(WJBL サマーキャンプ)

講師:審判規則部指導委員

参加者:22 名(女性 A 級、AA 級対象)

内容:WJBL ゲームの実技を通して、判定基準の確立を研修。その他、チームスタッフとのミーティングや、審判 3 人制の確認、フィットネステスト等を実施。(WJBL との共同開催形式)

8. AA 級強化合宿(男性)

期日:平成 22 年 7 月 17 日(木)~7 月 20 日(火)

場所:三重県伊勢市(WJBL サマーキャンプ)

講師:審判規則部指導委員

参加者:男性 AA 級公認審判員(WJBL 担当)

内容:前年度シーズンの反省、WJBL ゲームの実技研修、チームスタッフとのミーティング、ルールや 3 人制審判システムの確認、フィットネステスト等を実施。(WJBL との共同開催形式)

期日:平成 22 年 8 月 21 日(土)~8 月 22 日(日)

場所:栃木県那須市(JBL サマーキャンプ 2010 in 那須)

講師:審判規則部指導委員

参加者:男性 AA 級公認審判員(JBL 担当)

内容:前年度シーズンの反省、JBL ゲームによる実技研修、DVD 研修、チームスタッフとのミーティング、フィットネステスト、ルールの確認作業等を実施。(JBL との共同開催形式)

9. 第2次A級指名強化合宿

期日:平成22年9月11日(土)~9月12日(日)

場所:男性 東京都、女性 茨城県つくば市

講師:審判規則部指導委員

参加者:男性は第1次及びA級強化合宿から選抜(6名)

女性は女性審判強化合宿から選抜(4名)

内容:1泊2日の強化合宿形式にて実施。ミーティングや実戦ゲームにより判定基準、ゲームコントロール等を評価し、全員をAA級審査会へ推薦。

10. AA級審査会

期日:平成22年10月9日(土)~10月10日(日)

場所:男性、女性 東京都

講師:審判規則部指導委員

参加者:A級審判からの選抜者(男性6名、女性4名)

内容:第2次A級指名強化合宿からの推薦者が参加。1泊2日形式にて実施し、実戦ゲームを通して技術の理解、ゲームコントロール等を評価し次期(平成23年度)AA級候補者を推薦。(最終的に、男性3名、女性1名を23年度新規AA級審判員に推薦)

11. AA級指名強化合宿

期日:平成22年4月24日(土)~4月25日(日)

場所:東京都

講師:審判部指導委員

参加者:AA級公認審判員から男性4名、女性2名

内容:AA級公認審判員の中から次期国際審判員受検有資格者と平成22年度新規昇格者を指名し、審判技術の向上及び指導力の向上を目的とし、実技テスト、体力テスト、英文ルールテスト、英会話テスト、ミーティングを実施。(最終的に女性1名をFIBA-ASIAレフェリークリニック受検へ推薦)

12. ヤングオフィシャルキャンプ・2010

期日:平成22年8月13日(金)~8月15日(日)

場所:埼玉県上尾市

講師:Costas Rigas氏(FIBA/ギリシャ)*ユーロリーグレフェリーディレクター
審判規則部指導委員

参加者:全国から25歳以下の日本公認審判員50名(自費参加)

内容:全国の若手公認審判員を対象に早い段階での上級・国際審判員への動機づけを行うと共に、基本的な審判法、ルールの確認、審判員としての心構えを指導。埼玉県内高校チームによる練習試合の実戦他、英会話講義、英文ルール、Costas Rigas氏による講話。また団体生活を体験することにより、社会人としての生活ルール・マナー体得も目的とする。

13. 国際審判員研修会(兼トップカテゴリー研修会)

期日:平成23年1月8日(土)~1月10日(月)

場所:東京都

講師:Lubomir Kotleba 氏 (FIBA/スロバキア)

小幡真一郎氏、家本政明氏(両講師とも、財団法人日本サッカー協会より派遣)

審判部指導委員

参加者:国際審判員を中心とした、AA 級審判員

内容:「オールジャパン 2011」の実戦ゲームによる実技研修、審判技術の向上及び判定基準、レフリーのマネージメント、ゲームコントロールの確立。外国人講師、外部講師及び審判部指導委員会、規則委員会による講義、DVD研修等で、日本のトップレベルの審判員としての意識・技術向上を目的とした講習会。

14. 国際審判員早期育成プロジェクト(新規事業)

期日:平成23年1月8日(土)~1月10日(月)

場所:東京都

講師:Lubomir Kotleba 氏 (FIBA/スロバキア)

小幡真一郎氏、家本政明氏(両講師とも、財団法人日本サッカー協会より派遣)

橋本ハビエル氏・橋本エグレ氏(語学講師)

参加者:平成23年度新規A級昇格者でブロックより推薦された10名

内容:オールジャパン観戦研修及びミーティングの参加、国際審判研修会の外国人講師、外部講師による講義の聴講、審判規則部指導委員会の講義、英会話研修、ルールテスト等の実施により、早い段階で国際審判員になる為の意識や技術向上の意欲を持つ事を目的とした講習会。

15. その他

(1)大会指導・評価活動

審判規則部指導委員会によるインターハイ、ウインターカップ、国体、インカレ、オールジャパン等の国内主要大会での審判指導を実施。15年度より設置された審判スーパーバイザーによる、AA級審判員の公式戦(JBL、WJBL、インターハイ、国体、インカレ、ウインターカップ、全日本総合等)における審判評価の活動を行うと共に、全国ママさん交歓大会、日本スポーツマスターズ2010にも、開催県審判員に対する審判指導員の派遣を行った。

(2)海外派遣

各国際大会への審判・コミッショナー派遣、男女各カテゴリー代表海外遠征の帯同、FIBA-EURO・ユーロリーグ系審判キャンプへの派遣、FIBA U-17 男子選手権及びABL/アジアリーグの視察、FIBA や FIBA-ASIA からの要請による指名審判員・指名コミッショナー派遣等を実施。

(3)日本協会主催大会における審判員派遣

国民体育大会、全国中学校大会、全国教員大会、全日本総合選手権大会、JBL、WJBL 等、国内における日本協会主催大会への審判員や審判スーパーバイザー、コミッショナーの派遣。

(4)各ブロック・各都道府県からの講師派遣

各ブロックや各都道府県から派遣依頼による、審判指導やT・O指導に関する講師派遣。

(5)「規則関係」:改正競技規則書(ルールブック)・審判マニュアルの作成作業

「FIBA Basketball Rule 2010」版の日本国内向けの競技規則書・審判マニュアルを作成。

(3)公認審判審査

1. A級研修合宿(平成22年5月8日～平成23年2月13日)
全国10ブロック10会場で開催。
ブロックの審査委員は、関連するブロックの研修会に参加しA級審判の実状を観察する。
A級強化合宿へ推薦する候補者の資料を作成する。
2. A級強化合宿(A級フレッシュマン研修合宿)(平成22年4月23日～5月2日)
東京(トヨタ府中スポーツセンター)で実施。
今年度、A級に昇格した全国の審判の実状を把握する。
3. 女性審判強化合宿(平成22年7月16日～18日)
三重県営サンアリーナで実施
全国の女性審判の実状を把握する。
4. A級指名強化合宿(平成22年9月10日～12日)
AA級候補者の実状を把握し、審査等の資料とする。
5. A級審査会
全国10ブロック10会場で開催。
ブロックの審査委員長と審査委員及びブロック審判長とでA級審判の候補者を選出する。
6. AA級審査会(平成22年10月8日～10日)
東京で開催。
AA級候補者の評価を行う。
7. 審査委員会(平成22年12月26日～27日)
(平成23年1月8日～9日)
事業報告、事業計画等
昇格、降格の審査を行う。

6. 施設、用具の認定

1) ボールの検定

- ① 検定日: 平成22年8月13日
- ② 承認日: 平成22年9月22日 日本協会理事会
- ③ 申請者: スポルディングジャパン(株)
- ④ 検定内容:材質、規格、色、周囲、つなぎ目、重さ、弾み
- ⑤ 合格品:

	面体	号数	材質	商品名	品番	製造法	標準価格
1	8面体	5号球	人工皮革	ZK PRO TF-1000	74-444J	貼り成型	7,300円

2	8面体	5号球	人工皮革	NBA GOLD SERIES	74-153J	貼り成型	4,300円
3	8面体	6号球	人工皮革	NEVER FLAT	74-446J	貼り成型	5,800円
4	8面体	6号球	人工皮革	NBA GOLD SERIES	74-154J	貼り成型	4,500円
5	8面体	7号球	人工皮革	ZK PRO	74-066Z	貼り成型	7,500円
6	8面体	7号球	人工皮革	NEVER FLAT	74-445J	貼り成型	5,800円
7	8面体	7号球	人工皮革	NBA GOLD	74-077J	貼り成型	4,500円
8	8面体	7号球	人工皮革	NBA SILVER	74-087J	貼り成型	3,800円

2) リングネットの検定

- ① 検定日: 平成23年2月16日
- ② 承認日: 平成23年2月16日 日本協会理事会
- ③ 申請者: (株)モルテン
- ④ 検定内容:

性能 一瞬止る	跳上防止 硬質仕上	長さ 40~45	12個の環 有無	白色のひ も	耐久性
○	○	○	○	○	◎



※ 22年10月1日~平成23年2月13日まで136日間使用(授業・部活)
性能は確保され、損傷はなく摩耗も見られず、品質上問題なし。

- ⑤ 合格品:
 - (1) 品番: RING NET BRN
 - (2) 規格: 材質 ⇒ 綿
色 ⇒ 白色
寸法 ⇒ 43 cm
 - (3) 製造: チャイニーズ・タイペイ製
 - (4) 特質: 跳ね上がり防止のためアンチウィッピング仕様
ネットの下部を硬質に仕上げ

3) 国体等全国大会視察時の施設用具点検

- ① 10/27・28 岩手国体正規視察の際に、公的施設のバックボードに重大な欠陥があることを発見、即使用禁止するよう指導した。
- ② 内容
 - (1) バックボードの枠の保護カバーが全くなくなっていた。
 - (2) プレッシャーリリースリングが全く機能していなかった。

4) 公的施設への用具点検指導

- ① 都道府県協会への通知、協会ホームページから全国へ発信
- ② 業者(メーカー)への点検実施の通知
- ③ 指導内容

(1) 日常点検〔施設管理者〕

日本協会「メンテナンス基準」の「日常点検表」の項目に従った点検の実施

(2) 保守点検〔メーカー〕

	設置2年目～8年目	9年目以降	ワイヤーロープ・滑車交換	駆動装置等の電装部品交換
移動式 バスケット装置	1年に1回	1年に1回	2,800時間か2年経過	適宜
吊下式 バスケット装置	2年に1回			
壁面式 バスケット装置				

5) 施設・用具マニュアルの改訂等作業の実施

- ① 検定工場会メンバーによる改定作業(継続)
- ② 部会メンバーによる改定作業(継続)
- ③ 事故防止・安全マニュアルの追加作業(継続)

7. 総務

◆ 事業計画に対し、順調に進んだものとしては、

- 新登録システムは、昨年度末に稼働し、大きなトラブルもなく運営できた。
- 情報の公開に関しても理事会並びに評議員会で定着した。
- 新ホームページの立ち上げに関しては、広報部主導で実施された。

◆ 現状解決できていない案件としては、

- 公益財団法人への移行に関して、技術的な諸問題の解決は勿論であるが、日本協会の将来への方向性も論じられる場も作らなければならない。
- 事務局の組織的なマネジメントが十分なされておらず、事務局員個々の能力が引き出されていない。

◆ 各種会議

04月14日 第一回理事会(東京)

06月09日 第二回理事会(東京)

06月20日 第三回理事会(東京)

第一回評議員会(東京)決算・事業報告等承認

09月12日 「日本協会創立80周年記念式典」(東京 高輪)

09月22日 第四回理事会(東京)

11月10日 第五回理事会(東京)

12月08日 第六回理事会(東京)

02月16日 第七回理事会(東京)

03月05日 第八回理事会(東京)

第二回評議員会(東京)予算・事業計画承認・会長選任

03月26日 第九回理事会(東京)

第三回評議員会(東京)役員選任・新公益法人移行承認

8. 財務

- 1) 公益法人法改正施行への対応について、次の方向性を確定し、環境整備を実施
 - (1) 新公益財団法人へ移行することを確定。コンサルタント会社とタイアップし、理事会、評議員会で決議
 - (2) 新会計基準(20年基準)に基づいた新会計システム(以下、単にPCAシステムという)を平成22年12月に導入、稼働させた。新会計基準の導入は、新公益法人移行のための前提条件でもある。
 - (3) 種々規程を整理、規程集を作成、内部統制整備に着手。
- 2) 入力まで事務局内で完結するPCAシステム導入により、会計システムのリアル化が実現。
速やかな資金チェックが可能となり、効率的な資金管理体制を構築
- 3) 予算の策定と執行体制
 - (1) PCAシステム導入・稼働により適正・スムーズな各事業予算・執行管理体制を実現、平成23年度は安定運営を志向
 - (2) 前年度に実現した部門ごと、事業ごと予算、実績そして実績見込の管理体制はPCAシステム導入により、より細やかな管理運営推進のペースを構築。
 - (3) PCAシステム導入に伴う支払決済権限ルール見直しや仮払金等管理については、来期継続推進
- 4) 中長期財務計画策定、理事会・評議員会で公表。

◆財務部決算等実施した年間スケジュールは次の通り

平成21年度期末実査(現金、出版物、証紙等棚卸し)・・・	平成22年4月1日
平成21年度決算案の会計監査・・・	平成22年6月第1週
平成21年度決算報告・・・	平成22年6月20日
平成22年度中間決算会計監査・・・	平成22年10月12日—13日 平成23年2月9日—10日
平成23年度各部予算案提出締切・・・	平成22年12月15日
平成22年度期末実査(現金、出版物、証紙等棚卸し)・・・	平成23年4月1日

9. 広報

平成22年度はJBA創立80周年の節目を迎え、「JBA2010宣言」を策定した。「JBA2010宣言」はJBA創立100周年を迎える2030年に向けた20カ年にわたる理念、ビジョン、そして目標にて構成されており、広報活動においてもこの宣言を常に意識した。

また、今年度の主なる事業として、2001年から開設してきたJBA公式ホームページ「jabba-net.com」をリニューアルし、新たに「japanbasketball.jp」として新規オープン。PCとモバイルを通じ統括団体として、その役割や育成・強化・普及のために行うさまざまな活動を、情報公開・提供していくことが出来るよう、また、様々なステークホルダーへの情報伝達を行い、理解・賛同を獲得していく社会的役割のため、そして、興行面ではライツホルダーとしての事業の展開を推進していくことが可能なサイト構成とした。

また、日本代表チームの関連としては、国内で3年ぶりに開催した国際親善試合の大会広報対応や、「第16回FIBA

女子世界選手権大会」、「第16回アジア競技大会」をはじめ、「第1回FIBA U-17女子世界選手権大会」ほか、アンダーカテゴリー国際大会等の結果、成績を広報した。

また、国内重点実施大会(?)である「第41回全国高等学校選抜優勝大会(ウインターカップ)」、「第86回天皇杯、第77回皇后杯全日本総合選手権大会(オールジャパン)」において事業広報化への転換を意識し、ホームページ等での広報活動を充実させた。

3月11日の東日本大震災発生以後は社会状況を勘案し、ホームページ上での麻生会長のコメント掲載や震災の影響による事業の中止等については適時に公表を行った。

1. 広報活動の充実

①国際大会(派遣)での日本代表広報対応

・第16回FIBA女子バスケットボール世界選手権大会

②国際親善試合での大会広報・報道対応

・「バスケットボール男子日本代表強化試合 2010 in 宇都宮 トーマス・ウィスマン男子日本代表ヘッドコーチ就任記念試合」

・「(財)日本バスケットボール協会創立80周年記念/スカイ・A開局20周年記念 バスケットボール男子日本代表国際親善試合 2010」

・「(財)日本バスケットボール協会創立80周年記念/スカイ・A開局20周年記念 バスケットボール女子日本代表国際親善試合 2010 兼 2010年FIBA女子バスケットボール世界選手権大会壮行試合」

③国内大会での大会広報・報道対応

・「第41回全国高等学校選抜優勝大会(ウインターカップ)」

・「第86回天皇杯、第77回皇后杯全日本総合選手権大会(オールジャパン)」

④記者会見の実施

・男女日本代表チーム・代表候補選手関連

・国際親善試合開催関連

・第24回FIBA ASIA女子バスケットボール選手権 長崎/大村大会

兼 2012年ロンドンオリンピック アジア地区予選 関連

2. 報道対応

①報道関係者のニーズに合わせた情報提供・プレスリリースの配信

②各媒体運動(スポーツ)部、テレビ媒体ニュース担当、事業担当との積極的コンタクトとプロモーション

③記者会見・記者懇親会の実施

④理事会・評議員会の公開対応

3. 公式サイトへの対応

①日本協会公式サイト(<http://www.japanbasketball.jp>)の新設

・2011(H23)年1月1日オープン

オープン初日ページビュー実績

7,758,432PV(前年同時期比 151%)

- ②日本協会公式モバイルサイト(<http://www.japanbasketball.jp>)の新設
 ・2010(H22)年 11 月 25 日オープン

オープン初日ページビュー実績	会員数
4,048,844PV	1074 名(11/25-3/25 現在)

10. 普及編成

1. 21 年度に新規事業として取り組んだ、未加盟のバスケットボール団体への働き掛けに関しましては、22 年度に於いて、日本車椅子バスケットボール連盟・日本車椅子ツインバスケットボール連盟・日本デフバスケットボール協会(聴覚障がい者のバスケットボール団体)・スペシャルオリンピックス日本、いわゆる障がいのある人のバスケットボール団体に対し、等しくバスケットボールを愛好し追求する仲間として、日本バスケットボール協会は、この 5 団体と公認団体としての覚書を締結し協力支援して行く事とし、日本バスケットボール協会の傘下に組織的位置付けを図りました。支援協力活動については覚書に基づき次のような活動を実施致しました。

<支援協力活動>

- 1)各団体の主催大会に於ける選手権大会に対し(財)日本バスケットボール協会は主催又は共催として参画し、会長杯、賞状の授与を行なった。

- ①日本車椅子バスケットボール選手権大会
- ②日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会
- ③全国デフバスケットボール選手権大会(震災の為中止)
- ④FIDジャパン・チャンピオンシップ大会
- ⑤2010 第 5 回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大坂

- 2)各団体の選手権大会以外の各種大会及び事業に対する後援名義の貸与を実施した

- 3)各団体主催の活動に対し、各都道府県協会及び連盟の協力を得て次の活動に協力及び支援を呼びかけました。

- ①審判の技術指導・審判講習会への講師派遣
- ②指導者育成講習会への講師派遣
- ③チームへの技術巡回指導
- ④各種普及活動への助力
- ⑤(財)日本バスケットボール協会主催大会に於ける障がいのある人の観戦や入場に配慮した結果、オールジャパンでは車椅子バスケットボール連盟の橋本会長他幹部の皆さんを含め車椅子利用者の観戦が増えました。

2. スリーオンスリーについては、22 年度は(財)日本バスケットボール協会創立 80 周年記念事業として、平成 22 年 8 月 15 日に大阪に於いて、大阪バスケットボール協会の全面的協力の中で、全国から男子 40 チーム女子 32 チームの参加により開催された。大会運営に於いては、創設大会とあって試行錯誤のなかで大阪バスケットボール協会の大変なご尽力により、初会とは思われない盛り上がりの大会が実施されました。この大会には日本スポーツ振興基金より助成を受ける事となり、この全国大会に特化した企画に担当者の視察とヒアリン

グを受け、大会運営の素晴らしさと、特別企画のチャリティ活動の「1ポイント1ワクチン」とエコ活動「集めようエコキャップ」に関し、注目されると共に賞賛を得ました。

この記念事業を起点にして、今後(財)日本バスケットボール協会として、国際的広がりにどのようにしてスリーオンスリーの普及を図るべきか模索する中で、平成23年度第2回大会を愛知県、平成24年度第3回大会を広島県で開催する事が理事会で承認されたことから、この取組みには将来を見据えスリーオンスリーの組織化を念頭に各県協会にも選任窓口を設置頂き、今後のスリーオンスリーに対する普及の方向付けと組織体制や運営形態の検討を図るべきと思慮致します。

3. フレッシュ・マイクロミニバスケットボール指導マニュアル作成

プレゴールデンエイジ(フレッシュ:U-10、マイクロ:U-8)の指導者の共通理解を図る目的で、ミニバスケットボールの全指導者にフレッシュ・マイクロミニバスケットボール指導マニュアル配布した。

4. 普及編成部会は年3回開催し、部員の英知を結集し期首計画を達成致しました。

11. 企画・事業

1. <日本代表関連・国際親善試合の開催>

①『(財)バスケットボール協会創立80周年記念/スカイ・A開局20周年記念

バスケットボール男子日本代表国際親善試合2010』

開催地:愛知県 豊田市、東京都 墨田区、福島県 須賀川市

大会期間:平成22年7月24日(土)~7月27日(火)

②『(財)バスケットボール協会創立80周年記念/スカイ・A開局20周年記念

バスケットボール男女子日本代表国際親善試合2010

兼 2010年FIBA女子バスケットボール世界選手権大会壮行試合』

開催地:北海道 札幌市、宮城県 仙台市、山形県 山形市

大会期間:平成22年8月28日(土)~8月31日(火)

- ・ 「国際親善試合」を日本で行うことにより、より多くのバスケットボールファンのみなさまにアリーナへ足を運んでいただく事ができ、ファンの拡大につながった。
- ・ オフィシャル・パートナーズへの露出の確保を行うことができた。
- ・ オフィシャル・パートナーズとの施策を行うことにより、関係強化を行うことができた。
- ・ 開催地協会の運営発展に寄与することができた。
- ・ 今後、定期的に「国際親善試合」を行い、更なるファンの拡大、JBA事業面での強化を図ってゆく。

男子国際親善試合有料入場者数	
豊田大会	3163人
東京大会	2066人
須賀川大会	1678人

女子国際親善試合有料入場者数	
札幌大会	2150人
仙台大会	1704人
山形大会	3051人

2. <<大会関連・国内大会>>

①JX-ENEOSウインターカップ2010 第41回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会

・開催概要 開催場所: 東京体育館メインアリーナおよびサブアリーナ

大会期間: 12月23日(祝・木)～12月29日(水)

- ・ 前回大会に引き続き、インターハイ決勝進出チームが参加することにより、男女各50チームが出場する、とても大きな大会となった。
- ・ 昨年に引き続き、株式会社ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング(以下、J SPORTS)との交渉を担当し、全100試合テレビ放映を実現させることができた。Cコートに於いては、1回戦よりライブ放送を実施した。
- ・ 会場運営においては、警備会社に会場の運営を任せ、会場運営の向上を行った。
- ・ 昨年同様の入場料金の設定にて行ったが、人気有名校の下位回戦の敗退や、カレンダーの影響にて、有料入場者数は昨年を若干下回る結果となってしまった。
- ・ 次回大会に向けて、常に満員の観客が入った状態で出場チームに最高のプレーをしていただけるよう運営に努力するとともに、テレビ放送規模拡大など新たな取り組みに着手し大会全体を発展させる方策を検討する。

②第86回天皇杯第77回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会(オールジャパン2011)

・ 開催要項 開催場所: 東京体育館、国立代々木競技場第一体育館、国立代々木競技場第二体育館

大会期間: 2011年1月2日(日)～1月10日(月・祝)

- ・ オールジャパン検討委員会の答申により、大きく運営を変更した最初の大会となった。
- ・ 1回戦から、3会場分散開催をした。
- ・ チーム強化奨励金の導入により、協賛金の収集が改めて必要となったが、厳しい経済状況下ということも手伝い、昨年比12%増に留まった。
- ・ チケットに関しては、入替制の導入などを行ったが、大きな混乱もなく、また有料入場者数も昨年を上回ることができた。
- ・ 大会自体の価値向上のためにも、大会自体のスキームの見直しも必要とされる。

3. <<事業の構築>>

①マーケティングシステムの確立

オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤー、サポーターティングカンパニーなどマーケティングスキームの確立を目指した。JBAとしては一貫した体制が取れておらず、全体的な取組の必要性がある。

・ 日本代表チームのロゴマーク、エンブレムなどの整備と運用

- ・日本代表チームの肖像権などの整備と運用
- ・登録競技者の肖像および JBA 主催大会の映像使用などの整備と運用の準備

②日本代表チームのコンテンツ価値向上

日本代表チームのコンテンツ価値を高め、新しいビジネス機会を創出する活動を行った。

- ・日本代表チームのエンブレム・ロゴの管理、運用。
- ・日本代表チームのマーケティングプログラムの実施
 - オフィシャルサプライヤー: 男女共通 (株)アシックス
 - オフィシャルサプライヤー: 男女共通 (株)モルテン
 - サポーティングカンパニー: 男女共通 日本航空
 - サポーティングカンパニー: 男女共通 セノー(株)
- ・国内で開催した日本代表戦でのエンブレム・ロゴおよびスポンサーの露出拡大

③JBA主催各種全国大会への支援体制強化(オールジャパン、ウインターカップ以外)。

- ・JBAが主催する全国大会のオフィシャル・パートナーズの獲得、およびオフィシャル・パートナーズへのケア体制を強化し、継続した支援を受けるための施策を行った。
- ・JBAが主催する全国大会オフィシャル商品のライセンス販売および管理を行った。

④JBAが主催する公式活動への支援強化

- ・エンデバー活動のオフィシャルパートナーズへのケア体制を強化し、継続した支援を受けるための施策を実施した。
- ・通年の広報活動に連動したプロモーション活動の実施。

⑤オフィシャルスポンサーとの契約

- ・(株)モルテンと、継続契約を締結した。

4. 《委員会の設置》

国際大会を国内にて開催するにあたり、下記の委員会が設置された。

①国際親善試合実行委員会

- ・国際親善試合開催にむけ、開催地の募集を行った。
- ・国際親善試合が円滑に運営できるよう、委員会にて、開催地との調整、各種業者の選定、対戦相手との交渉、を行った。

5. 《企画・事業部として》

企画・事業部としては、更なる価値の向上、収入の増加を目的に活動を行った。今後は、JBA 企画事業部として、各諸権利関係の見直しなどを整備し、将来に向けた事業スキームの再構築が必要になってきている。また、新たに JBA 主催大会、また国内における国際大会の運営に関して、事業のみならず運営面での体制構築が必要であり、今後取り組んでゆきたい。

12. 特別委員会

1. 創立80周年記念事業委員会

平成22年度、JBA創立80周年を迎えるにあたり、記念すべきこの年を、JBAにとってどのような1年にすべきか、80周年の節目として、未来に向かっての新たなステップとし、過去の歴史を懐かしく振り返ることだけにせず、JBAとして歴史を示唆に富んだ未来への道標として捉え、新たなステージの扉を開く契機として、JBAが行っている様々な事業をもっと広める事や新たな取り組みなど、80周年記念事業として実施する為、平成21年度より準備活動を行った。

① 80年史・記念誌部

・80年史・記念誌部会の開催

開催：2回、事務局定期打合せ：2週間に1度開催

・委託業者の決定

数社へ打診し、委託業者として「日本文化出版」へ決定

・80年史構成

50年史以降の30年を年史として構成

80年史発行：平成23年3月26日(土) 理事会・評議員会で配布

・記念式典用記念誌の作成

平成22年9月12日記念式典用簡易版80年史を作成し、式典にて配布

② 記念式典部

・開催日程・会場の決定

全国各地で行われる、各大会、行事の開催日等に配慮しながら、開催日を平成22年9月12日(日)に決定。また会場は各種ホテルを比較検討しながら、80周年記念によりふさわしい、「グランドプリンスホテル新高輪」の大宴会場「飛天」と決定した。

・記念式典の準備

一年前より準備を進め、当年度より、月に数回会議等をもち本格的な準備に取りかかる。

会場ホテル、西武トラベルに協力を得ながらも、外部委託ではなく、日本協会が中心となり会場レイアウト、招待状作成送付、記念品手配などの各種準備を進める。

・記念式典の開催

当日会場運営も準備同様、加盟団体に協力を得ながらも、日本協会が中心で行う。

式典は二部制で行い、前半は「記念式典」として、来賓の文部科学省・布村様、JOC 会長・竹田会長、日本体育協会専務理事・岡崎様等からご祝辞を頂いた。後半は立食形式で、より多くの方々をご招待し「祝賀会」を行った。

各年代の日本代表選手を始め、日本のバスケットボールに協力を頂いている企業の皆様、マンガ「スラムダンク」著者、井上雄彦様にもご出席頂いた。更には海外から国際連盟等の要人にお越し頂き、総勢600名以上の方々で80周年を祝うことができた。

この式典の最後には、「2010 宣言」が発表され、新たな日本のバスケットボールの輝かしい歴史を作り上げることが高らかに宣言され、式を締めくくった。

2. 新リーグ準備室

平成20年12月「トップリーグあり方検討委員会」が発足し、平成22年3月20日理事会・評議員会において、2013年シーズン目途に新リーグ設立の答申の承認とbjリーグをJBA公認リーグとして承認され、その後、JBAとJBL・bjにおいて覚書の締結がなされた。

平成22年6月度の理事会において、トップリーグあり方検討委員会の答申に基づき「新リーグ準備室」ならびにメンバーが決定され、2013年新リーグ設立に向け活動を開始した。

新たなトップリーグの創設にあたり、現行リーグのJBL・bjの現状把握やヒヤリングなどを実施し、平成23年2月度の理事会において経過報告を行った。その後も継続的にJBL・bjまた各加盟チームとの連絡や意見交換の実施を行い、準備室を中心として、2013年シーズン新リーグ創設に向け活動を継続して行ってゆく。

● 新リーグ準備室の設置

- ・ 新リーグ準備室をJBA事務局に設置
- ・ 準備室構成：深津総括、丸尾室長、吉田マネージャー、熊地アドバイザー、スタッフ：藤村、杉浦（事務局員）

● 活動報告

<準備室ミーティング>

- ・ JBA事務局にて随時開催
- ・ 2013年新リーグ概要の検討、新リーグ制度の検討、新リーグ法人検討、新リーグ規約・規定・事業内容等の検討、下部リーグ・地域リーグの検討
- ・ 平成23年2月 2013年新リーグ検討状況経過報告
- ・ bjリーグチーム・選手、JBA登録や諸手続きの対応など、bjリーグ・チームとの窓口業務

<両リーグ連絡協議会>

開催回数 2回

<JBL・bjチームヒヤリングの実施>

平成22年11月～平成23年3月 各チーム実施

<bjリーグ説明会の実施>

平成23年2月7日

<JBL・チーム説明会の実施>

平成23年2月9日

<bjリーグチーム説明会の実施>

平成23年2月14日

3. 倫理委員会

行動規範、倫理規定、及び各種規定等に抵触する事案について、JBA 理事会より委員会開催の要請を受け、下記の日時で倫理委員会を開催した。

- ① 平成22年10月21日(木) @岸記念体育会館「101」号室
- ② 平成23年2月28日(月) @岸記念体育会館「504」号室

4. 環境委員会

1) 活動概要

スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないとの自覚、スポーツ界にも環境対策が必要との認識を自らの行動と共に、傘下連盟・団体、プレイヤー及びファンの方々と共有するよう環境関連のメッセージを発信する等、環境保全活動を積極的に推進する。

2) 平成 22 年度活動実施内容

<大会開催時>

- (1) プログラムへの環境取組みメッセージ広告掲載
- (2) 大会会場内への横断幕、ポスター掲示
- (3) モノを大切に(3R)の推進
 - ・削減(Reduce) ・再利用(Reuse) ・リサイクル(Recycle)
- (4) ゴミの分別
- (5) その他
 - ① 環境関連イベント(啓発活動)の実施と記録整理等
 - ② 参加スタッフ、選手への啓発活動発信(マニュアル配布等)

<団体内部における環境活動>

- (1) クールビズ(夏季期間)、ウォームビズ(冬季期間)への参画
- (2) グリーン購入・調達の推進
- (3) 会議資料の電子化による紙の削減

<各種取り組みへの参画>

- (1) JOC 主催担当者会議、フォーラム及びイベント等への参加
- (2) チャレンジ 25 キャンペーンへの参画、HP へのリンクバナー掲出

3) 全体的な成果と今後の課題

環境活動への取り組みは徐々に浸透してきており、傘下団体においても環境への意識は高まってきている。尚、実施にあたっては、まだ各大会開催地が進める環境保全活動と一体になった推進が出来ていないことから、今後は大会開催が決まった早い時点から地元自治体との調整、交流を図っていくことが必要。

5. 危機管理・法務等検討委員会

危機管理・法務等の規程等見直すことが十分に出来なかった。

しかし、初めてのドーピング問題が発生し、大震災の発生時の対応、今後プロ選手との権利契約問題などが山積しており、今までと同じ協会内部だけの議論では対応できなくなっており、外部委員も含めた議論の必要性がはっきりしてきた。

6. オールジャパン検討委員会

1) 委員会の目的

①JBAとして設立 80 周年を迎えるこの年に、最も権威ある大会の更なる価値の最大化を目指し、かつ国内における競技力向上に寄与し、統括団体としての使命を果たしゆく為に、オールジャパンの抜本的な見直しも視野に入れ、今後のさらなる大会価値向上の検討を行う。

2) 委員会メンバーについて

①広く意見を集約するために、メンバーは各加盟団体、地方ブロック、学識とさまざまな分野から構成した。

②委員会構成

	所属団体	役職	氏名	
委員長	JBA	副会長	伊藤 善文	#
委員	JBA	(AJ 2010 実行委員長)	今 豊	*
委員	JBA	事務局長	松岡 憲四郎	*
委員	JBL	専務理事	吉田 長寿	*
委員	JBL2	JBL2 事務局	川島 健太	
委員	WJBL	WJBL 事務局	安達 宣郎	
委員	全日本大学連盟	理事長	林 直樹	
委員	日本実業団連盟 (全日本社会人選手権)	理事長	羽角 国広	#
委員	日本クラブ連盟 (全日本社会人選手権)	会長	稲垣 進司	#
委員	全国高体連	副部長	品田 奥義	#
委員	地方・ブロック	北海道	森野 和泰	
委員	地方・ブロック	三重県	土田 正文	
委員	地方・ブロック	鹿児島県	鮫島 俊秀	
委員	学識	—	杉山 茂	

3) ワーキンググループ

①検討委員会への事前の調査、議題や検討事項など、事務的機能を果たすために、ワーキンググループを設置。

②ワーキンググループ構成

委員	JBA	(AJ 2010 実行委員長)	今 豊	*
委員	JBA	事務局長	松岡 憲四郎	*
委員	JBL	専務理事	吉田 長寿	*
委員	JBL2	JBL2 事務局	川島 健太	
委員	WJBL	WJBL 事務局	安達 宣郎	

[注釈] #印:平成22年度JBA理事、*印:平成22年度JBA特任委員

4) 活動報告

①検討委員会

- ・第4回検討委員会 平成22年4月20日(火)13:00~@岸記念体育会館 505会議室
- ・第5回検討委員会 平成22年5月12日(水)16:00~@Café MIYAMA ルノール 会議室1

②ワーキンググループ(WG)

- ・第4回WG 平成22年5月10日(水)14:00~@JBA会議室

③理事会

- ・平成22年6月9日理事会にて答申書、アンケート結果を提出
- ・下記答申内容について、理事会にて承認
 - A. チーム強化奨励金の導入の提案
 - B. 大会要項に関する提案
 - C. 大会運営に関する提案

④オールジャパン2011

- ・理事会にて承認された答申どおりに、オールジャパン2011を実施した

⑤JBL、JBL2、bjリーグの出場枠について

- ・bjリーグの出場枠については、2012年大会より、JBL2出場枠:4チームを2チームに削減し、bjリーグ出場枠:2チームとすることに決定した。

7. 第24回FIBA ASIA女子バスケットボール選手権 長崎/大村大会

兼 2012年ロンドンオリンピックアジア地区予選 組織委員会

1) 大会概要

- ・ 期間:2011年8月21日(日)~8月28日(日)の8日間(26日は休息日)
- ・ 試合会場:シーハットおおむら
- ・ 出場チーム:レベル1 中国、韓国、日本、チャイニーズタイペイ、インド、レバノン
- ・ 本部ホテルおよびテクニカルホテル:ホテルニュー長崎
- ・ レベル1ホテル:長崎全日空ホテル グラバーヒル
- ・ レベル2ホテル:長崎インターナショナルホテル

※テクニカルホテルは4/17に長崎インターナショナルに変更の指示あり調整中

2) 会議・視察報告

- ・ 表敬訪問の実施:6月23日(長崎県・中村知事、大村市・松本市長)
- ・ 会場視察:8月1日(シーハットおおむらを視察)
- ・ 準備会議の実施:10月以降、長崎県内で原則週1回ペースで開催
- ・ 第1回組織委員会総会:2010年11月1日(大村市中央公民館 大会議室)

- ・ FIBA ASIA視察:2010年11月2日、2011年1月23日
- 3) 準備状況
- ・ 2010年6月の招致決定以降、開催地の長崎県協会と協同で準備を進めた。
 - ・ 第1回総会以降、各委員会を設置し準備を進めた。
 - ・ シーハットおおむら(大村市内)と本部およびチーム宿舎の一部(長崎市内)の距離が離れている課題があったが、FIBA ASIAに了解をとり大会準備にあたった。
 - ・ 大会実施運営計画(案)の策定
 1. 会場利用計画案
 2. 会場設営計画案
 3. 会場運営計画案
 4. 競技運営計画案
 5. 式典・演出進行計画案
 6. 宿泊輸送計画案
 - ・ 会場設備・用具機材について計画(案)に基づき行政との交渉
 - ・ 各委員会を設置し、各委員会ごとに準備を進めた。
- 4) 今後の予定
- ・ 事務局の設置(大村市内、5月上旬)
 - ・ 各委員会活動の活性化
 - ・ プロモーション活動の実施
 - ・ チケットセールスの実施

以上